

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、ロールベールのラッピングにご使用ください。

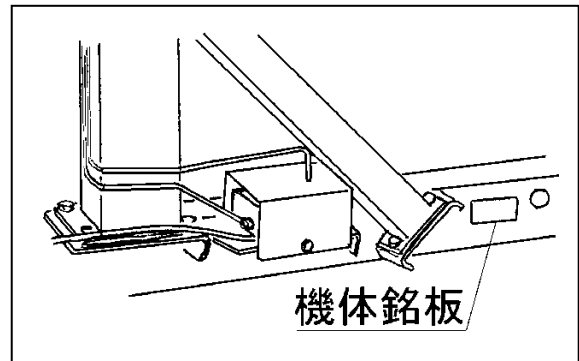
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

(機体銘板貼付け位置図)



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

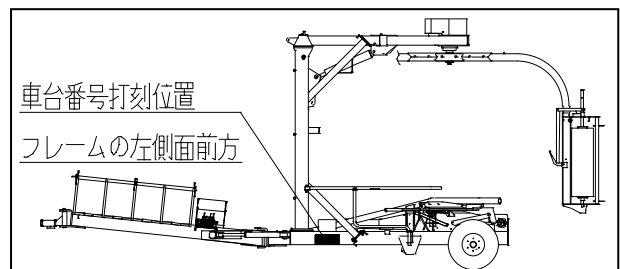
【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	フルオートラップマシーン		
型式	WM1631AX(T) / WM1631AXW(T)		
機体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

車台番号について

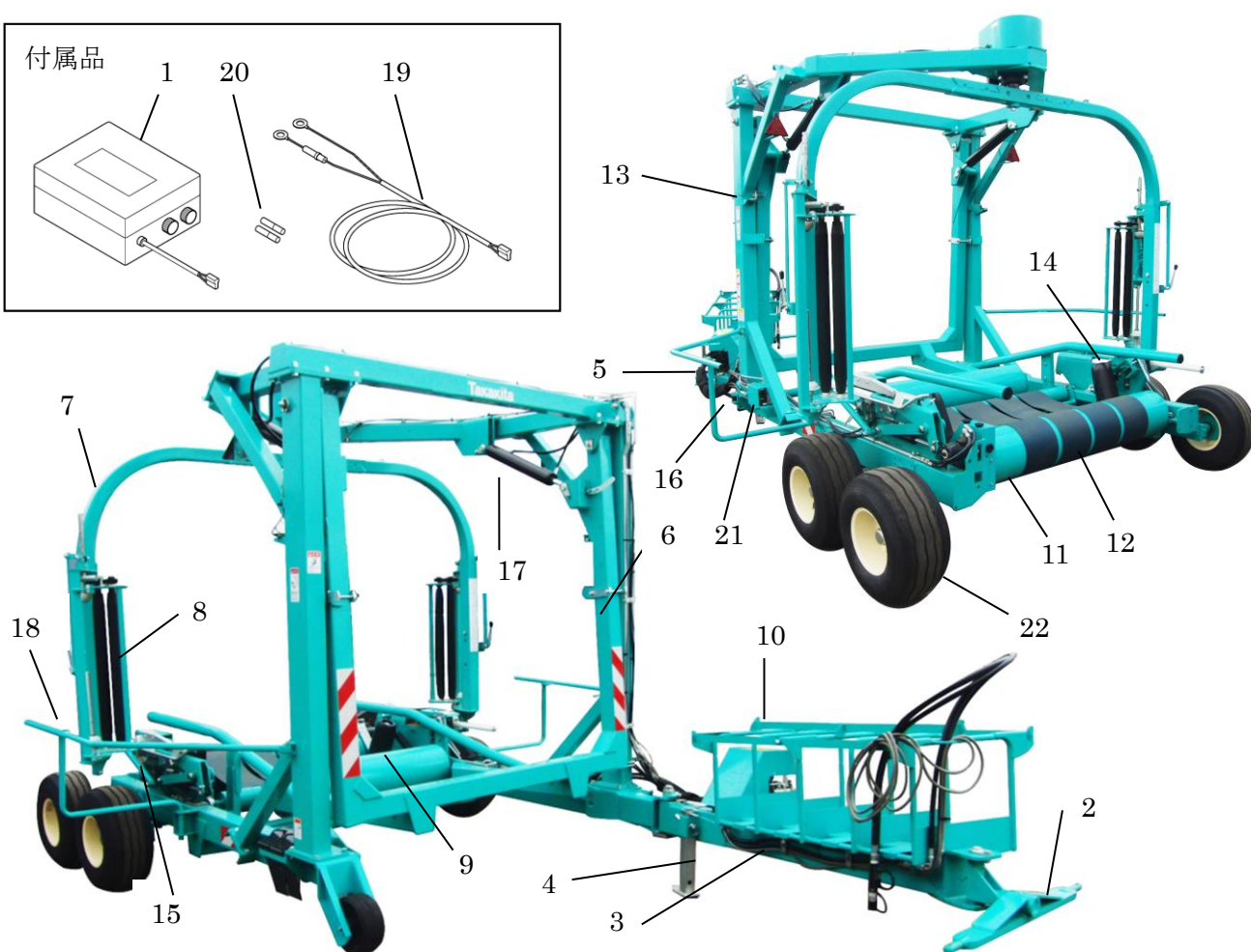
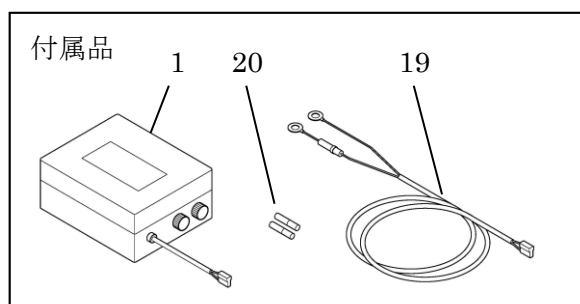
本製品には、上記機体 No.と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。

打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。



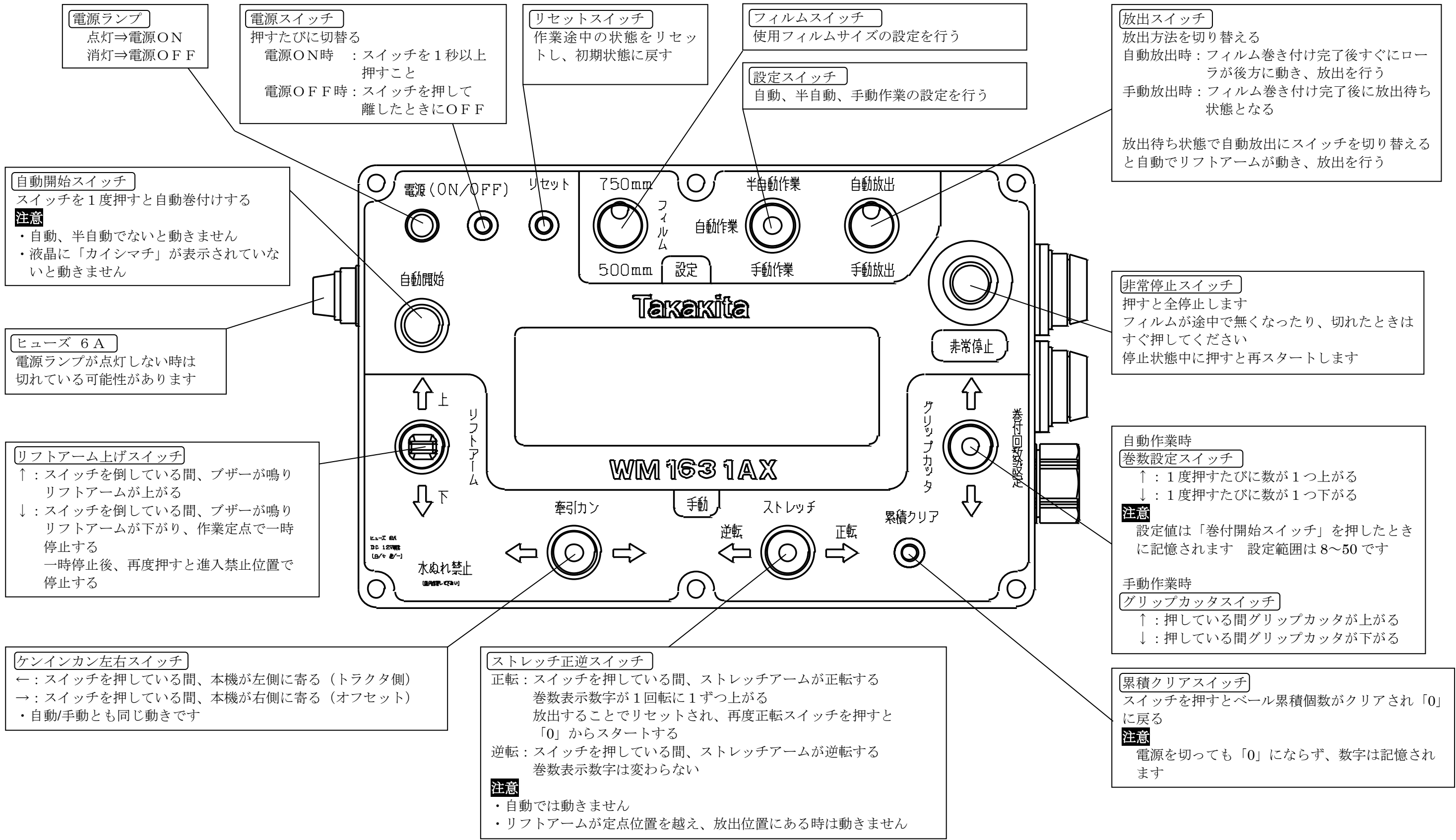
型式	WM1631AX(T)	WM1631AXW(T)
車台番号	WM1630-****	WM1630W-****

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	コントロールボックス	本機の操作を手元で行う（詳細別紙）
2	けん引ヒッチ	トラクタのローワーリンクに連結する
3	けん引かん	本機のオフセット位置を変える
4	スタンド	トラクタとの脱着時、保管時に使用する
5	バルブ操作レバー	本機側で、ストレッチアームなどを回転するレバー
6	リフトアーム	ベールを、テーブルローラに乗せる・及び放出する
7	ストレッチアーム	回転して、フィルムをベールに巻付ける
8	ストレッチブラケット	フィルムをセットする、及びフィルムを引き伸ばす
9	リフトローラ	ベール回転時の補助ローラ
10	フィルムボックス	予備のフィルムを入れておくボックス
11	テーブルローラ	ベールを回転させるローラ
12	ベルト	ベールを回転させる
13	リフトアームセンサー	リフトアームを適正位置に停止させる
14	サイドローラ	ベールの横ずれ防止
15	グリップカッタ	フィルムをつかみ、切断する
16	油圧シリンダ	けん引かんを左右に動かす
17	油圧シリンダ	リフトアームを上下させる
18	安全ガード	ストレッチアーム回転範囲、立入禁止
19	電源コード	バッテリーより電源を取出します
20	予備ヒューズ	コントロールボックス（6 A）、電源コード（30 A）の予備ヒューズ各1ヶ
21	流量調整バルブ	ストレッチアームの回転速度を調整します。
22	タンデム	走行時の機体の揺動を抑える（WM1631AXW（T）のみ）

各部の名称とはたらき（コントロールボックス）



トラクタへの装着

！ 注意

- トラクタへの本機の装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
- ロワーリンクへの装着はリンケージの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. ロワーリンクへの装着のしかた

◆ロワーリンクの装着順序

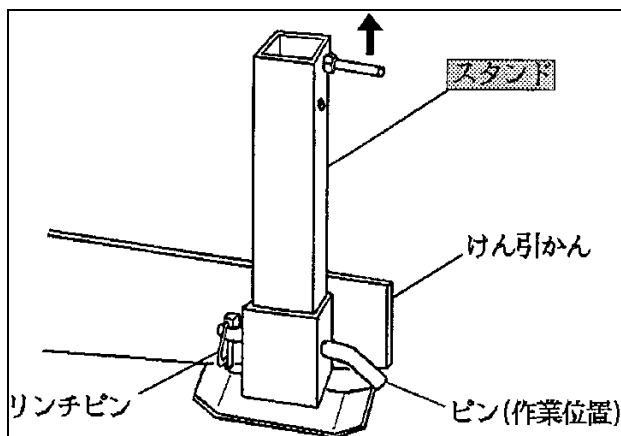
左のロワーリンク、右のロワーリンクの順序で取付けてください。

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬時及び作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心に本機中心が一致するように左右均等に固定してください。

◆スタンドを上げる

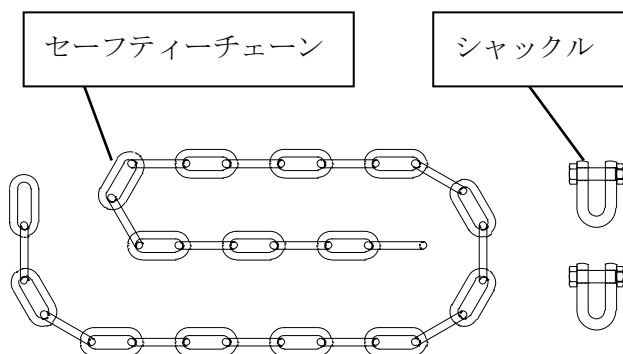
トラクタのロワーリンクを少し上げて、スタンドを持ち上げ作業位置にセットしてください。



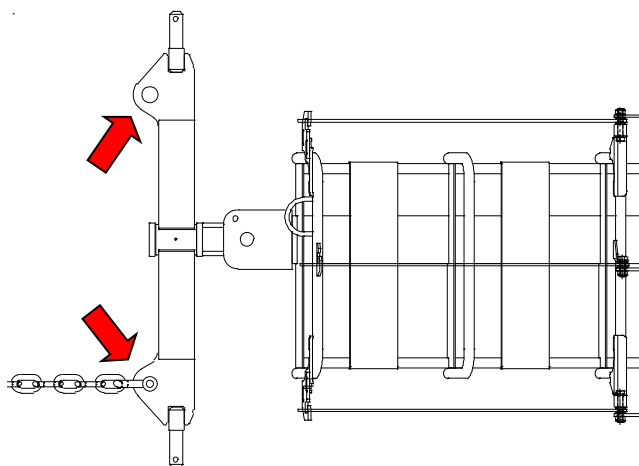
2. セーフティーチェーンの接続

◆作業機を農耕トラクタでけん引して公道走行する際はセーフティーチェーンでの連結が必要です。

セーフティーチェーン1本とヌケドメピン付きのシャックル2個を付属しています。本機をトラクタでけん引し公道走行する際は、必ずチェーンで作業機とトラクタを連結した状態で走行してください。



- ①セーフティーチェーンの片端をシャックルを使用して本機ヒッチの穴に固定します。(どちらの穴を使用してもかまいません)



トラクタへの装着

- ②シャックルを使用してセーフティチェーンをトラクタのドローバ部等に外れないよう固定します。



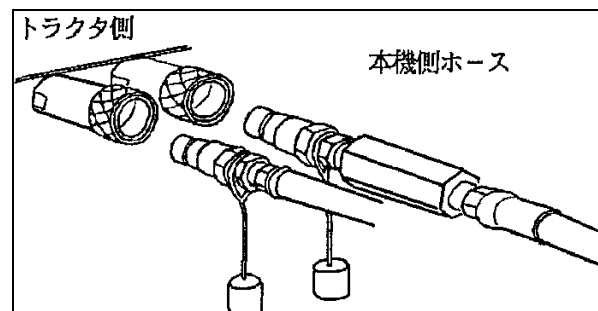
注意

- シャックル固定後は必ずヌケドメピンを入れ、抜け止めしてください。
- 旋回時にチェーンがドローバ等に引っかからない事を確認して下さい。

3. 油圧ホースの接続

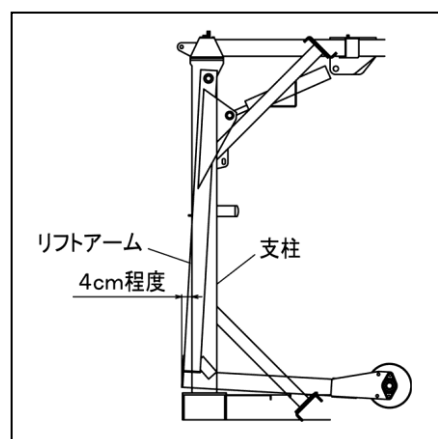
◆接続は残圧を抜いてから

- ①トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてください。
- ②油圧ホース（2本）をトラクタの複動カプラに確実に接続してください。



◆離脱するときは

リフトアームシリンダの残圧を残さないため、リフトアームを下図程度の位置に止めてください。



注意

- カプラ接続時はカプラ部分をきれいに拭き取り、ゴミなどのない状態で確実に接続してください。
〔ゴミ及び不確実な接続は、油圧系統のトラブルの元になります。〕
- 油圧ホースをトラクタから外したときは、必ず付属のダストキャップをカプラに差し込み、傷を付けないようにしてください。

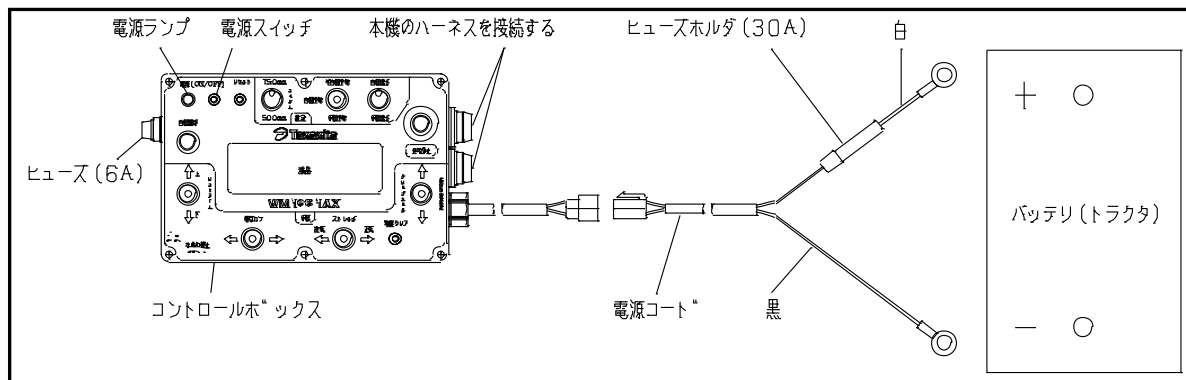
トラクタへの装着

4. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから取ります

●接続できるバッテリーの電源は、12Vです。

※24Vのバッテリーに接続しないでください。間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。



●電源コード

- ・白色線はバッテリーの (+) へ接続
- ・黒色線はバッテリーの (-) へ接続

注意

(+)、(-) の接続を間違えると、コントロールボックスの電源が入りません。
(電源ランプが点灯しません。)

！ 注意

- 接続の順序は (+) 側から行ってください。
- 取外すときは (-) 側から行ってください。
- 逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取付け

裏側に永久磁石がついています。操作しやすい位置に吸着してください。

◆配線の接続

電源コードのハーネスをコントロールボックスに接続してください。

◆電源ONの確認

電源をONにするときは、電源スイッチを押して電源をONにします。電源ランプが点灯するのを確認してください。

電源をONからOFFにするときは、再度電源スイッチを押して電源OFFとなります。電源ランプが消灯するのを確

認してください。

電源が入らないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの (+) と (-) が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

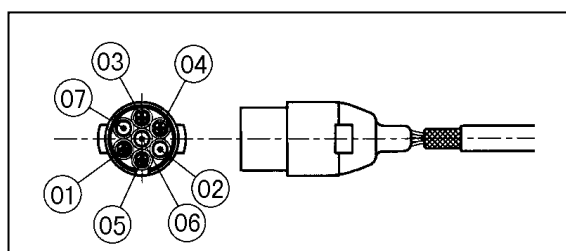
長期間使用すると電源コードのヒューズ部分が腐食して電源が流れない場合があります。

グリスの塗布をお勧めします。

トラクタへの装着

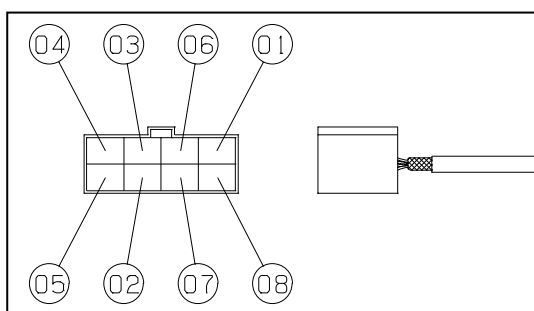
5. 灯火装置の接続

●D I N規格 7P コネクタ



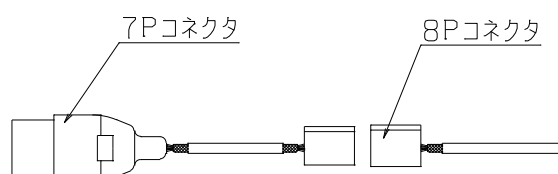
端子No.	配線色	接 続 機 器
①	白色線	アース
②	黒色線	尾灯・番号灯・車幅灯
③	黄色線	方向指示灯（左）
④	赤色線	制動灯
⑤	緑色線	方向指示灯（右）
⑥		（未使用）
⑦	茶色線	後退灯

●日農工規格 8P コネクタ



端子No.	配線色	接 続 機 器
①	白色線	アース
②	黒色線	尾灯・番号灯・車幅灯
③	黄色線	方向指示灯（左）
④	赤色線	制動灯
⑤	緑色線	方向指示灯（右）
⑥		（未使用）
⑦	茶色線	後退灯
⑧		（未使用）

8P コネクタでトラクタに接続する場合は、先端の 7P コネクタを外して使用してください



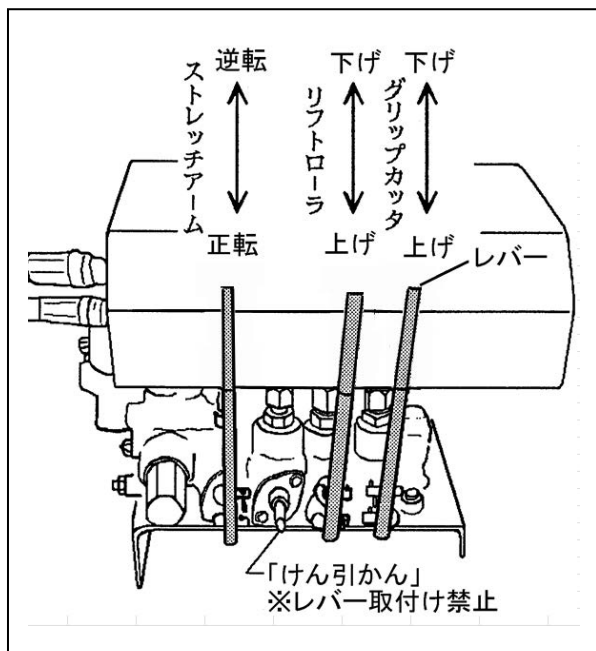
運転に必要な装置の取扱い

1. コントロールバルブの取扱い

本機装着のバルブは、4連電磁バルブです。

◆バルブレバーを操作するときは

運転者がトラクタの運転席より離れて、本機の近くで段取り作業や最後の仕上げ作業を行うときのみとし、それ以外はコントロールボックスで操作してください。



注意

レバー操作するときは、コントロールボックスの電源を切った状態で行ってください。

警告

- コントロールバルブのレバー操作は、本機の安全装置が働きません。
- レバー操作するときは、ストレッチアームの回転・リフトローラ・グリップカッタの動きに十分注意してください。

2. コントロールボックスの取扱い

◆ベールの積込みから放出まで

手元でベールの積込み、ラッピング、フィルム切断、ラッピング後のベールの放出まで行います。

- 作業中は必ず、自動作業の位置にして、数字が上がり、設定値で終了するのを確認してください。

※作業中コントロールボックスに、水やほこりがかからないようにしてください。

- コントロールボックスの詳しい内容については、『各部の名称をはたらき』を参照してください。(22頁)

◆作業終了後は、取外して屋内保管

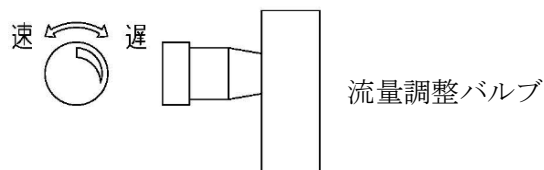
作業終了後は、電源コード側のコネクタより切り離し、水やほこりなどがからない屋内に保管してください。

3. ストレッチアームの速度調整

作業前に空回しでストレッチアームを回転させ、回転速度が 40min^{-1} 以下になるようにトラクタの流量を調整して下さい。

◆トラクタで流量調整ができないときは

本機に取り付けている流量調整バルブにて調整を行ってください。



- 流量調整バルブの場所については『各部の名称をはたらき』を参照してください。(22頁)

注意

トラクタで調整できる場合は本機の調整バルブは全開にして下さい。
油温が上昇しやすくなります。

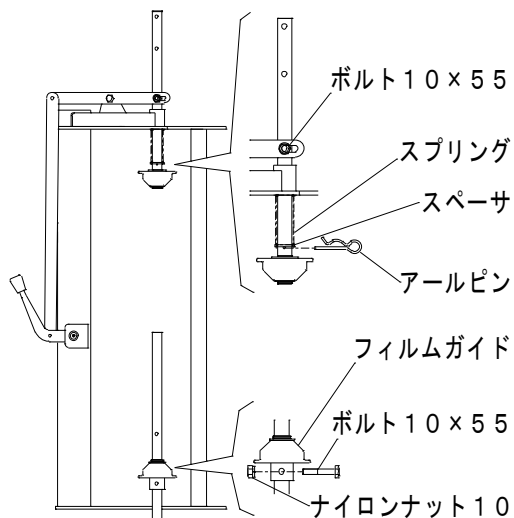
運転に必要な装置の取扱い

4. フィルムサイズ変更時の組替え

使用するフィルムサイズを変更する場合は部品を組替える必要があります。

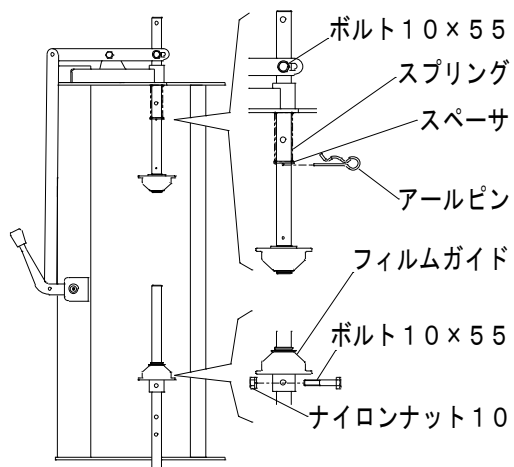
◆フィルムガイドの高さ変更

①フィルム幅 750mmの場合



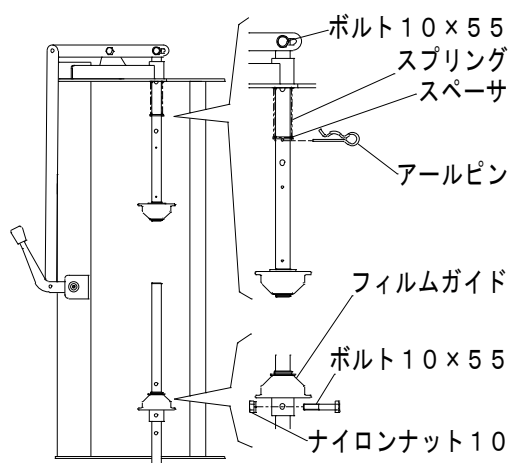
②フィルム幅 500mm

ロール径 $\phi 1300 \sim \phi 1600$ の場合



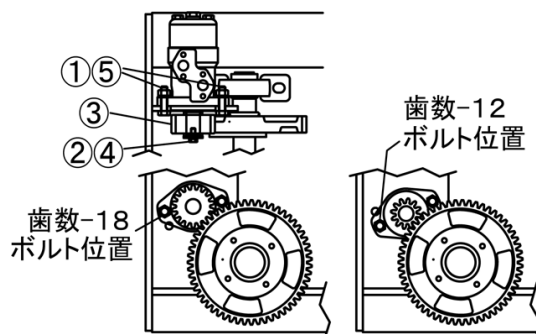
③フィルム幅 500mm

ロール径 $\phi 1200 \sim \phi 1300$ の場合



図①②③に示すようにフィルムサイズ、ロール径に応じた位置に部品を組み替えて下さい。

◆テーブルの速度変更



使用するフィルムサイズに応じてギア及びモーター取り付け位置を組み替えて下さい。

- ①モーターを固定しているボルトを外します。
- ②モーター軸端のボルトとザガネを外します。
- ③ギアを交換します。
 - ・ 750mm フィルムの場合－歯数 18
 - ・ 500mm フィルムの場合－歯数 12
- ④モーター軸端のボルトとザガネを組付けます。
- ⑤図の位置にモーターをボルトで固定します。

運転に必要な装置の取扱い

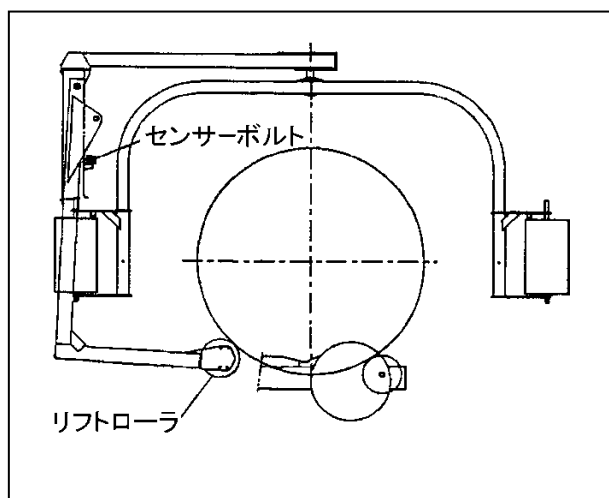
5. リフトローラ停止位置の調整

工場出荷時は、ベール径φ1500にセットしてあります。

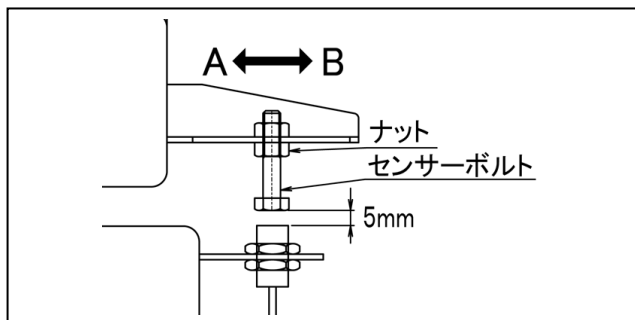
φ1500以外のベールをラップするときは、リフトローラの自動停止位置を調整してください。

◆センサーボルトの位置調整

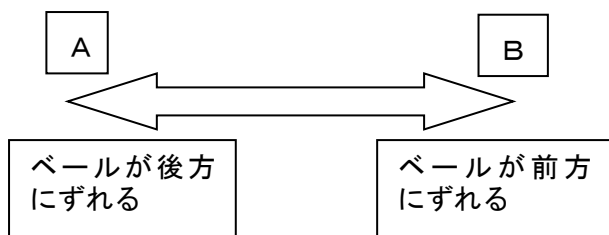
リフトローラが自動停止したとき、ベールの中心がストレッチアームの中心と一致するように、センサーボルトの位置を調整します。



◆調整のしかた



●ナットをゆるめてセンサーボルトをずらしてください。

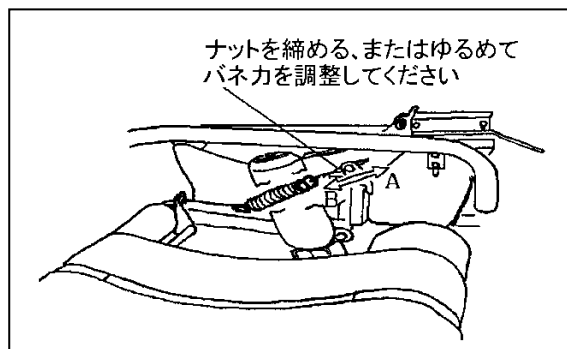


注意

位置が合っていないとストレッチブラケットがベールに当たる恐れがあります。

6. テーブル前ローラのバネ調整

ベールの重量に応じて、バネ力を調整してください。

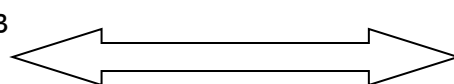


バネ力を弱める



バネ力を強める

B



A

軽量でベールが浮いてしまう



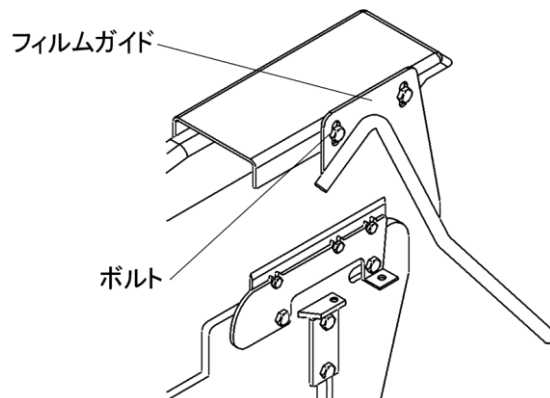
重量ベールでベルトが空転して回転しない

●通常は標準出荷位置で作業できます。

7. フィルム切断具合の調整

グリップカッターによるフィルム切断具合が良くないとき、次の調整をしてください。

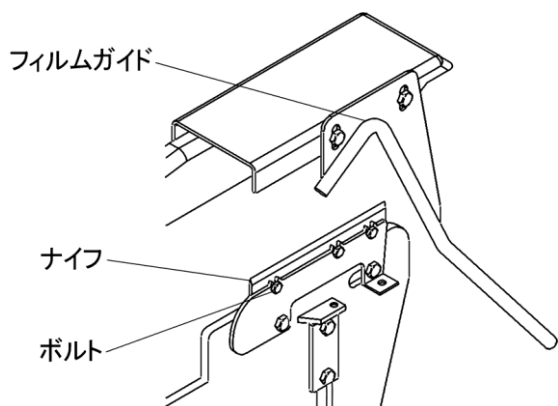
・フィルムを挟む前に切れて抜けてしまうときは、グリップカッターのフィルムオサエを上げてください。



フィルムオサエを上げるほど切れるタイミングが遅くなって抜けにくくなります。

運転に必要な装置の取扱い

フィルムの切れが悪く放出時にフィルムを引張ってしまうときは、フィルムオサエは最も下げ、またナイフを長穴分上げてください。

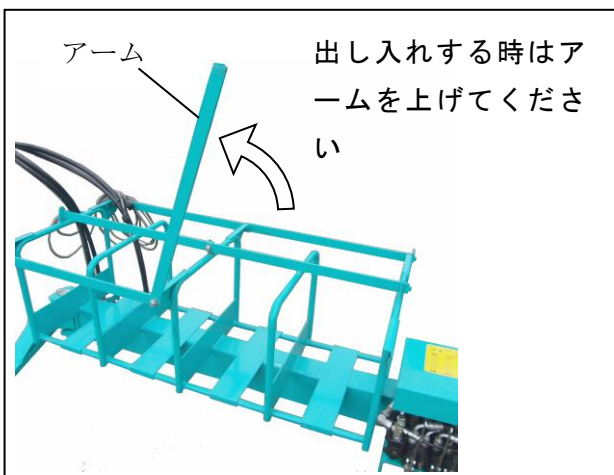


⚠ 注意

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

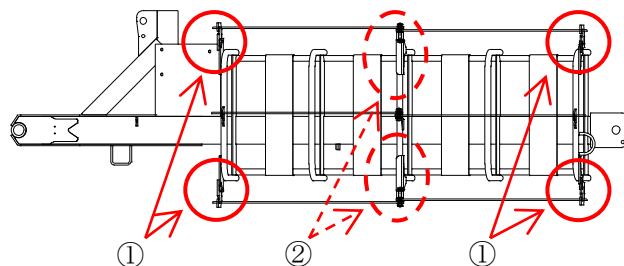
8. フィルム格納のしかた

フィルムは箱のまま、けん引かん上部のフィルムボックスに入れてください。
(8箱入れることが可能です)



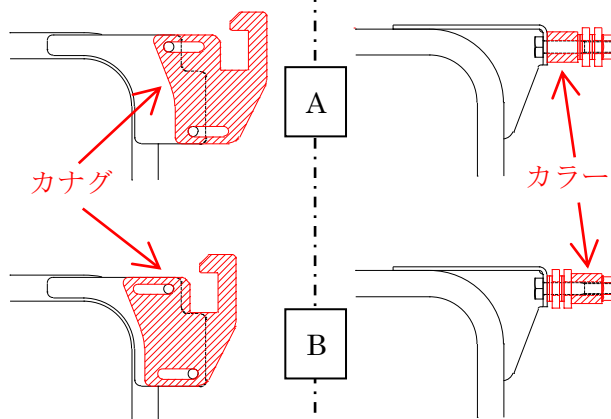
ボックス収納スペースはアームの組付け方により2段階に調整可能です。
使用する箱サイズに合わせてご使用ください。

◆アーム組付け調整方法



①ナットをゆるめ、カナグをスライドさせ調整します。

②ナイロンナットを外し、カラーの組付け位置を変更します。

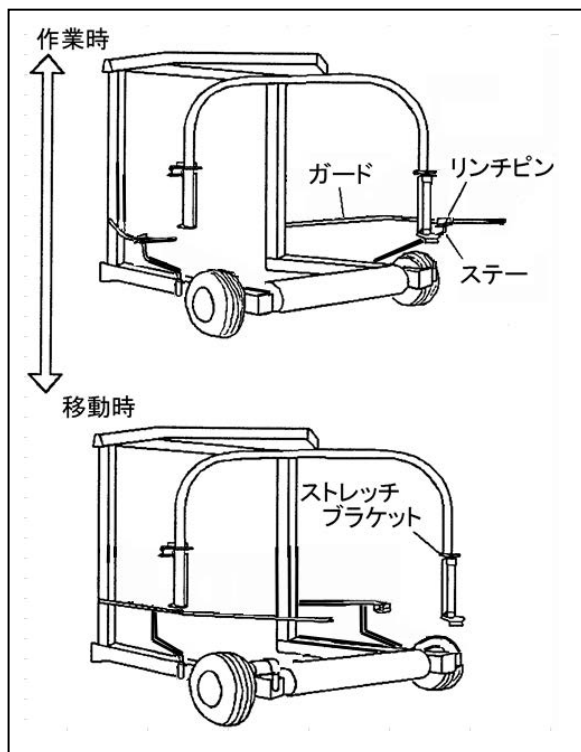


Aの組み合わせまたはBの組み合わせの2段階に収納スペースを調整できます。
(出荷時はAパターンで組付けています。)

運転に必要な装置の取扱い

9. 安全ガードの取扱い

作業時は広げ、移動時はたたんでください。



※ガードをたたむときは、図のようにストレッチブラケットを必ず前後の位置にしてから行ってください。

◆ガードの広げ方・たたみ方

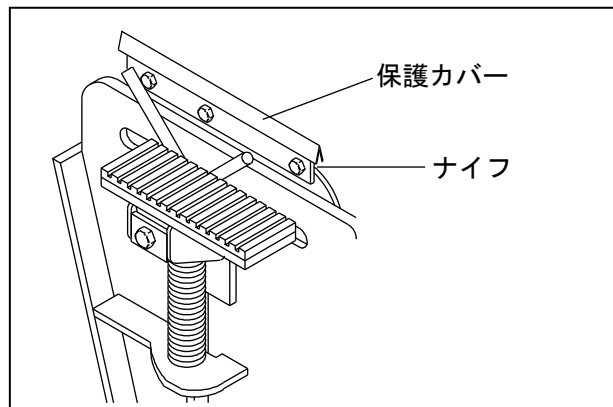
- リンチピンを外し、ステーを回転させその部分にガードを再度リンチピンで止めて変更してください。

⚠ 警告

取扱いは、トラクタのエンジンを止めて行ってください。

10. グリップカッター・ナイフ保護カバーの取外し

工場出荷時はナイフには危険防止のため、刃物部に保護カバーがついています。使用前に取外してください。

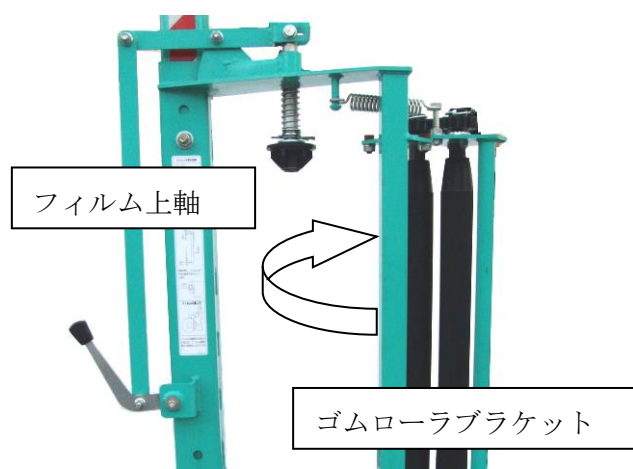


⚠ 注意

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

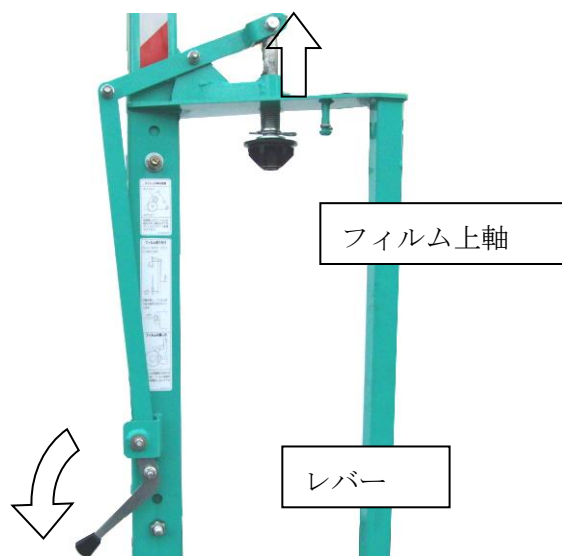
11. フィルムをセットする

- (1) ゴムローラブラケットをフィルム軸と逆方向に支点越えするまで押します。

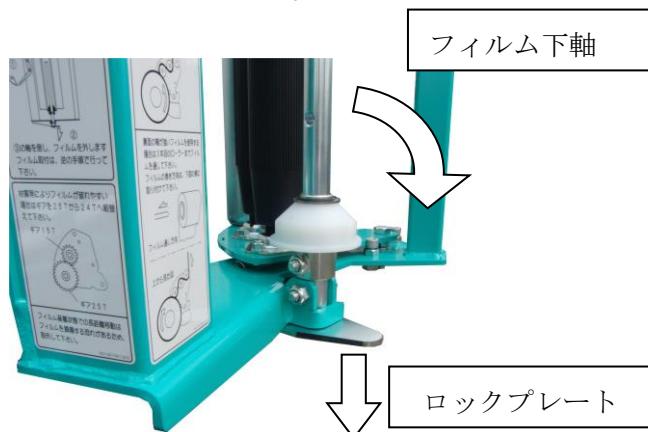


運転に必要な装置の取扱い

(2) レバーを下げ、フィルム上軸を上げた状態で保持します。



(3) ロックプレートを下げ、フィルム下軸を手前に倒します。



(4) フィルム下軸にフィルムを差し込みます。

(a) フィルムの表面の糊が強い、または表面と裏面の糊が同等の強さの場合。



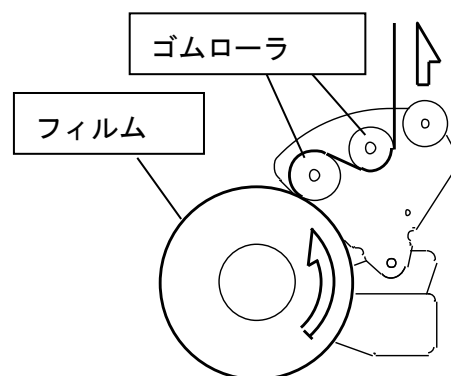
(b) フィルムの裏面の糊が強い場合は上写真と逆の巻き方向で差し込んでください。

(5) フィルムを起し、レバーを上げてフィルム上軸をフィルムの筒に合わせて下げます。

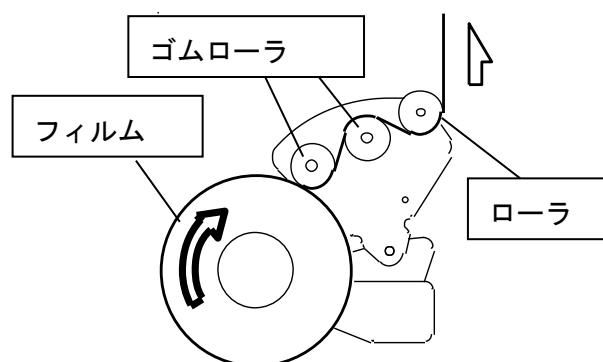


(6) フィルムをゴムローラに通します。

(4) - (a) の場合



(4) - (b) の場合



図のようにフィルムをゴムローラに通してください。(上から見た状態です)

運転に必要な装置の取扱い

注意

- フィルムの取扱いには十分注意してください。
- 特に端部に傷がつくと、ラッピング中に切断します。
- フィルムの糊面と異なる通し方をした場合、強い糊面がロール表面になるため運搬時にフィルムを破るおそれがあります。



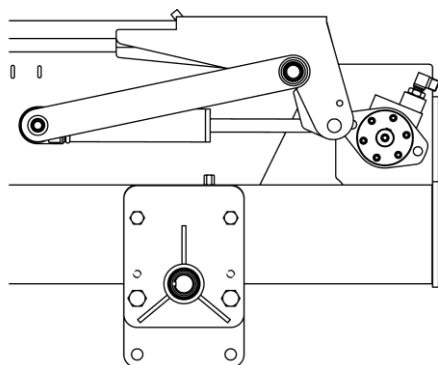
警告

フィルムを本機にセットするときは、必ずトラクタのエンジンを停止してから行ってください。

12. タイヤの取付け位置

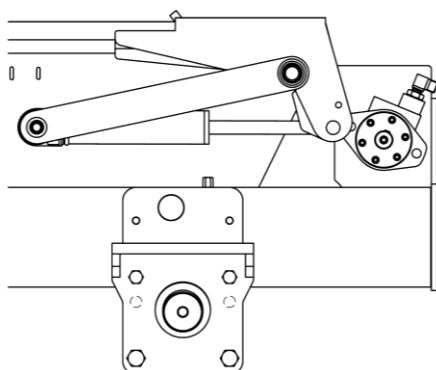
(1) シングルの場合

下フレームタイヤ取付け部分の上側の穴に装着します。



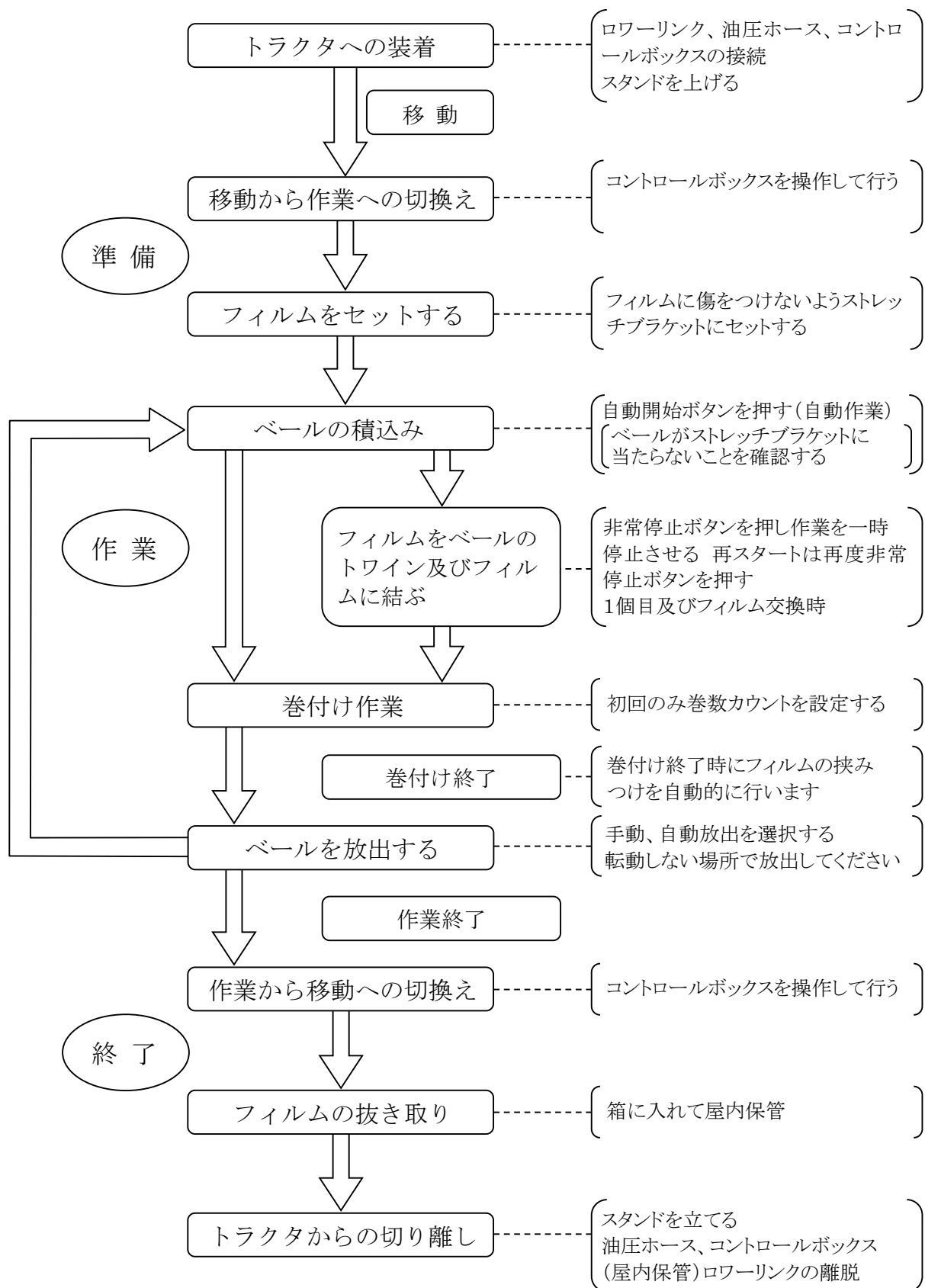
(2) タンデムの場合

下フレームタイヤ取付け部分の下側の穴に装着します。



作業方法

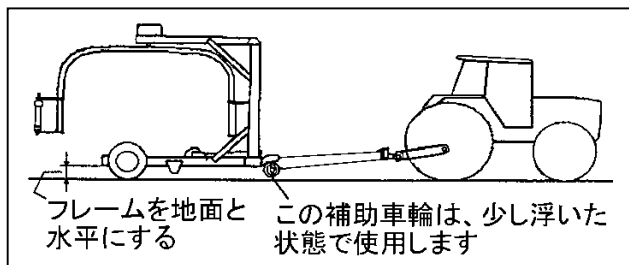
1. 作業手順と要点



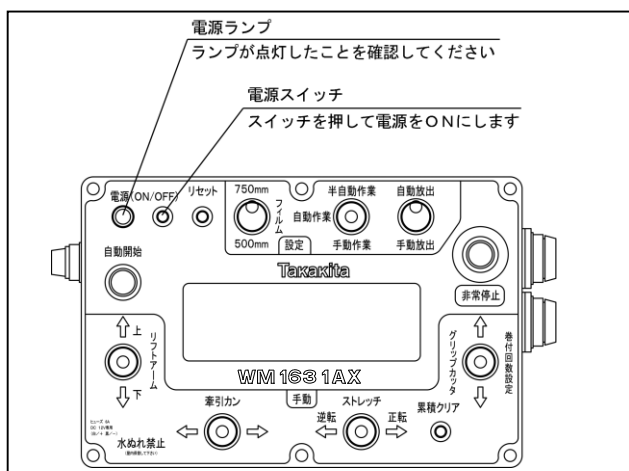
作業方法

2. 移動から作業への切替え

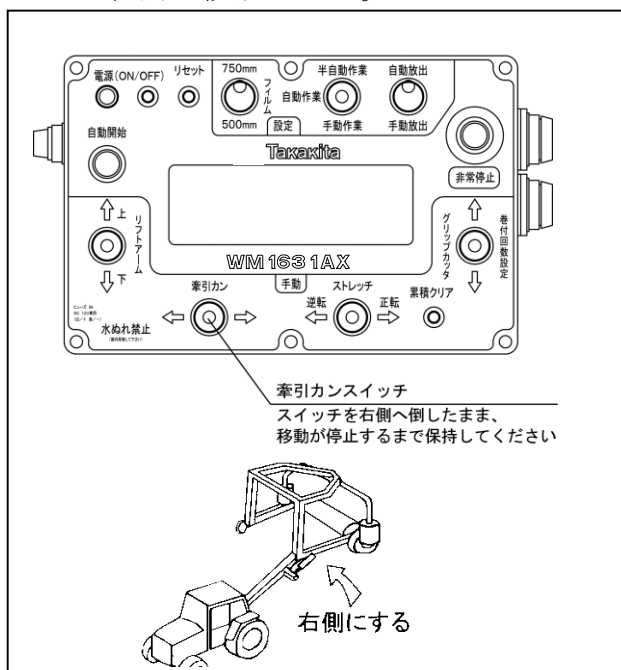
- ①ロワーリンクを操作して、本機を水平にしてください。



- ②コントロールボックスの電源スイッチを押して電源をONにしてください。



- ③トラクタを外部油圧取出しに切替え、コントロールボックスを操作して本機を右側に移動させる。



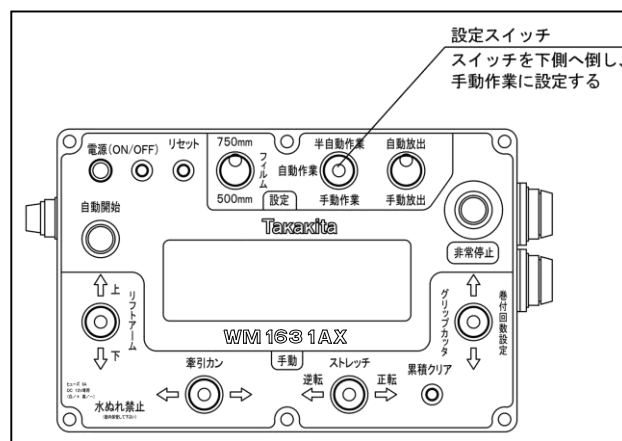
- ④ガードを広げる (32 頁参照)
- ⑤フィルムをセットする (32 頁参照)

3. 巻数設定

注意

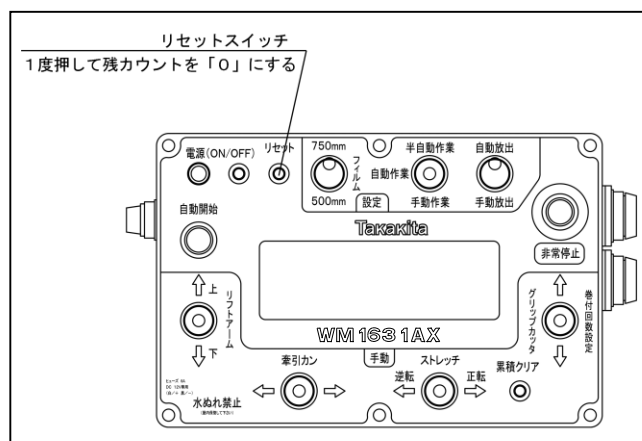
フィルムの巻数設定は、ベールサイズならびにフィルムの重ね数によって異なります。
実際のベールに巻付け、確認してください。

- ①手動作業にする



- ②巻付数のリセット

ベールを積込む前に記憶している残カウントをリセットして「0」にするため、一度コントロールボックスのリセットボタンを押してください。

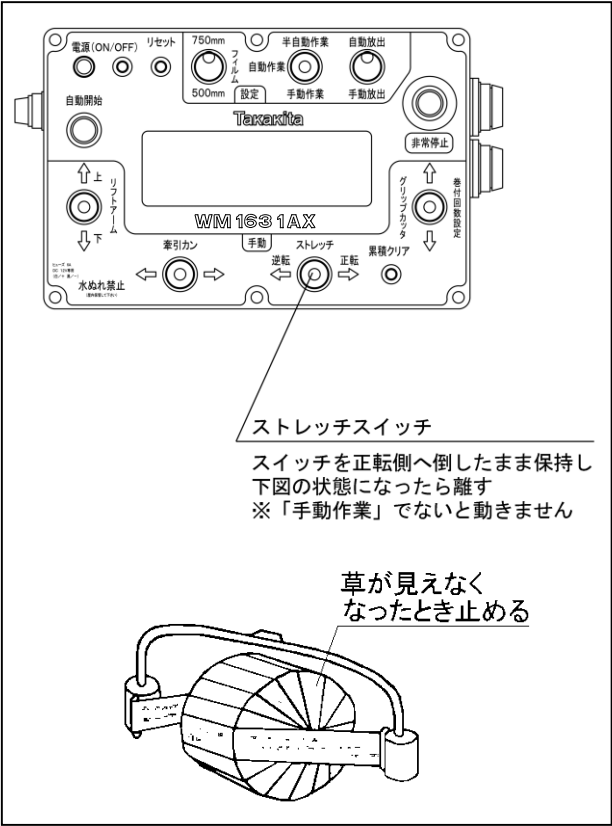


- ③「6. 手動作業」(45 頁～) を参照して、ベールを積込んでください。

作業方法

④手動で巻付け

手動でベールの草がフィルムで見えなくなるまで巻付けてください。



⑤④の状態が2重巻きとなります。このときの液晶の最下段の数字を確認してください。

[例]

シュドウモード

セッテイ マクスウ:12 カイ
マクスウ : 8 カイ

最下段の
数字8

⑥設定値の算出

●⑤で確認した表示窓の数字をもとに、希望する重ね数の設定値を算出してください。

●⑤の例の場合

重ね数	設定値
2重巻	8
4重巻	16 (8 × 2)
6重巻	24 (8 × 3)

この設定値は本設定 (⑨) するまで忘れないよう記憶願います。

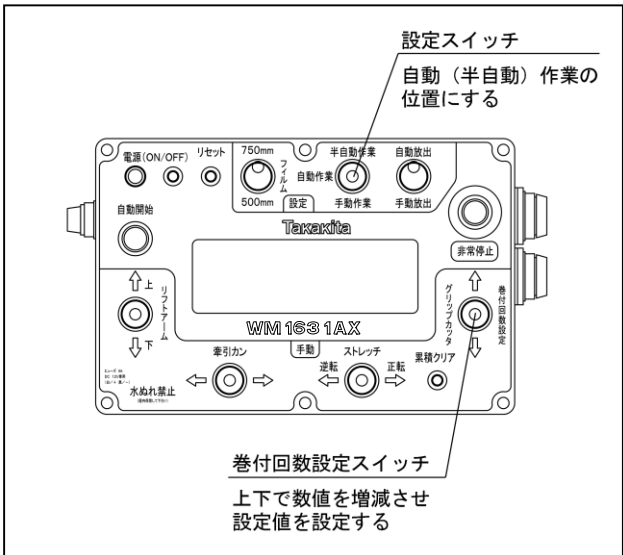
⑦この1個のベールの残り巻付けは、「手動作業」のまま設定値まで巻付け、フィルムのグリップカット及び放出まで行ってください。

(手動作業の使用方法は 45 頁～を参照してください)

⑧次のベールを同じ要領で積込みしてください。

⑨本設定

自動 (半自動) 作業に切替え、巻付回数設定スイッチを上下させて巻き数を⑤で求めた数字に設定してください。



カイシマチ
マクスウ セッテイ カノウ
グリップ ウエ シタ デ セット
セッテイ:8 ルイセキ:3

操作中

セッテイ:24
ルイセキ:3

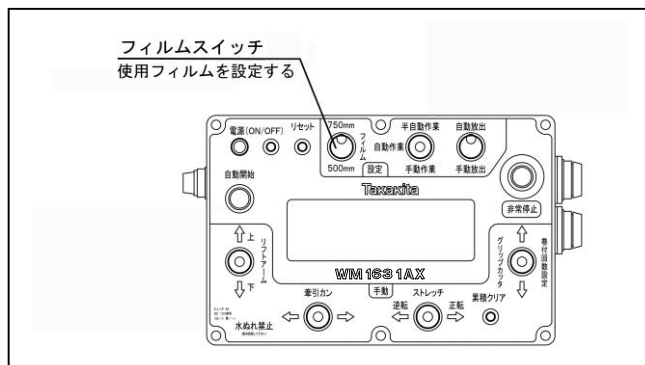
注意

設定可能範囲は8～50です。

作業方法

⑩フィルムサイズ設定

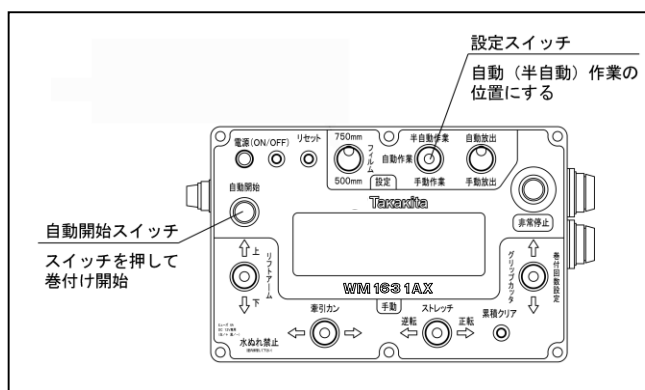
フィルムスイッチを使用するフィルムサイズに設定する。



⑪自動（半自動）作業

自動開始スイッチを押し、自動巻付けする。

このとき、コントロールボックスの表示数字及び本機が「5. 自動（半自動）作業」（39 頁～）のように変化し、動くことを確認してください。



注意

- 設定値は、電源を切っても記憶され続けます。
従って設定値を変更する場合以外は、再設定の必要はありません。

⑫ベールの放出

「5. 自動（半自動）作業」（39 頁～）を参照してベールを放出してください。

4. 累積ベール表示

自動（半自動）で巻付けたベール数を表示することができます。

①累積表示

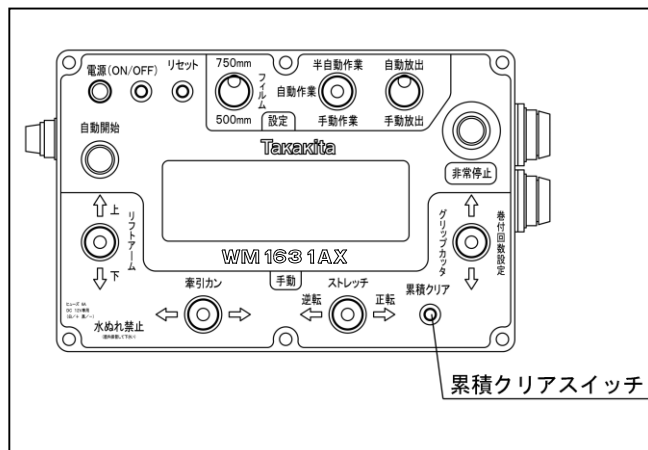
開始待ちの状態にしてください。

作業中の場合はリセットボタンを押し開始待ちの状態にしてください。

②累積数の「0」クリア

累積数は電源を切っても記憶され続けます。

「0」に戻したいときは、自動作業開始待ちの状態ですべての累積クリアスイッチを押してください。



カイシマチ

マキシウ セッテイ カノウ
グリップ ウエ シタ デ セット
セッテイ:24 ルイセキ:0

③自動巻付累積表示

自動開始スイッチを押して巻付け、放出した数を表示します。

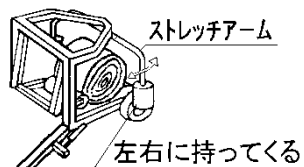
注意

- 手動巻付けした場合は、数に加わりません。
- 巻付け途中で非常停止した後、再度巻付スタートした場合は、2度スイッチを押したことになりますが、1個とみなします。

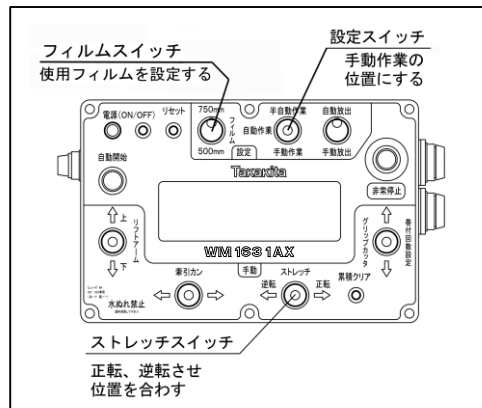
作業方法

5. 自動（半自動）作業

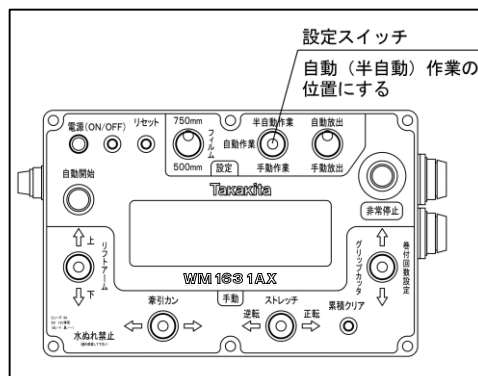
1回目のみ
ストレッチアームを手動操作で
左右にする



使用するフィルムを設定する



設定を自動作業もしくは半自動
作業にする

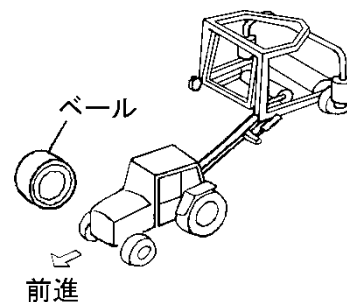


「設定」の自動作業では表示部
は無表示ですが、半自動作業
を選択すると、下図のとおり表示
されます。

ハンジドウモード

ベールに向かって前進する

ベールの積込みは
横方向、右図のよう
に前進する

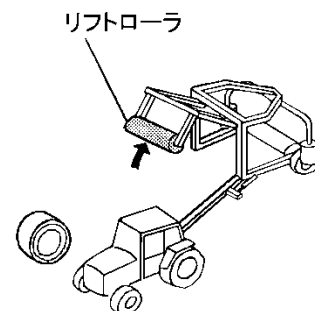


カイシマチ
マキシウ セッテイ カノウ
グリッブ ウエ シタ デ セット
セッテイ:24 ルイセキ:0

あらかじめフィルム
巻数設定をしておく
(36 頁)

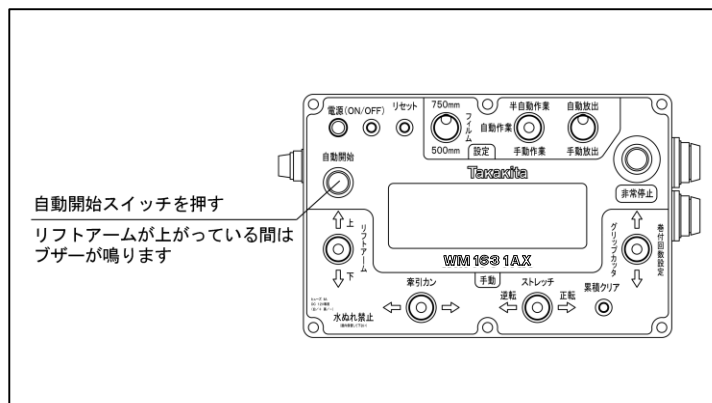
作業方法

自動作業の場合はバールの手前で自動開始スイッチを押します。
半自動作業の場合はリフトアームスイッチを“上”にして上がりきって停止するまで保持してください。



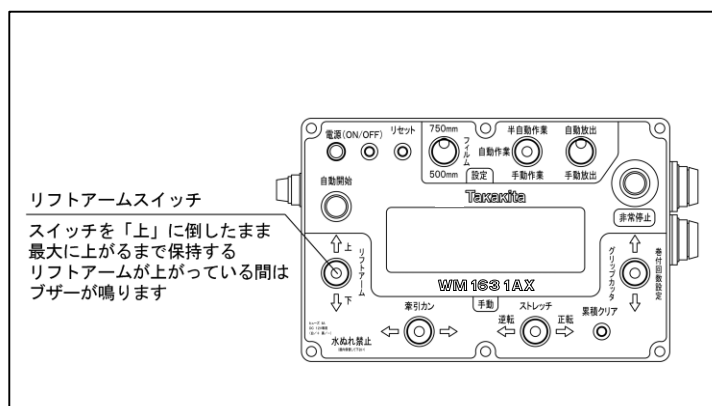
自動作業

リフト ガ ウゴキマス

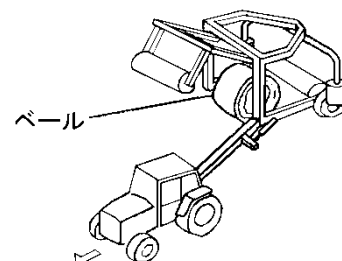


半自動作業

ハンジドウモード
リフト テイイチ
セッテイ:24 ルイセキ:0



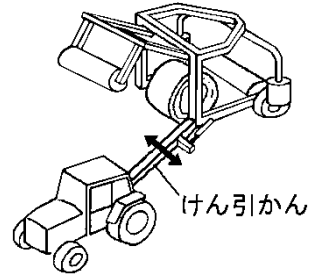
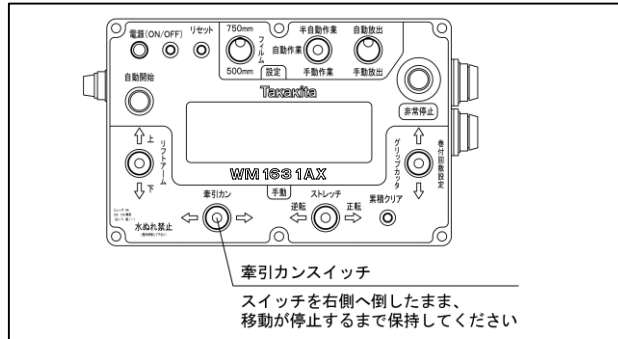
前進してバールを入れます



↑ 前項に戻る

作業方法

ずれたときは「牽引カンスイッチ」を押して修正します。



自動作業……ベールを検出しリフトアームが自動で下がりベールを積込みします。
下がっている間リフトアームスイッチを上にするとその間リフトアームは上がります。ベールがずれて積込みがうまくいかないときに使用してください。

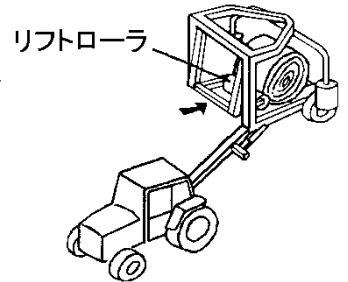
半自動作業…ベールが最適位置に来たらリフトアームスイッチにて手動で積込みします。
そのままスイッチを下げの方向で押し続けると、自動的にリフトアームは定位置で停止します。

自動作業

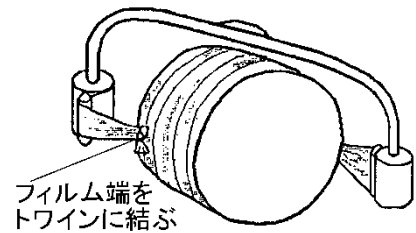
リフト ガ ウゴキマス

半自動作業では表示
されません。

リフトアームが下がっている間はブザーが鳴っています。



1個のみベールのトワインにフィルムを結びつけます。
必ず非常停止ボタンを押し、一時停止させて行ってください。再スタートは再度非常停止ボタンを押します。



※非常停止ボタンを押すと“ピッピッピッ”という音が鳴ります。

自動作業……巻付けは自動的に開始します。
半自動作業…巻付けはリフトアームが定位置に
来たら自動開始ボタンを押します。



取扱いは、トラクタのエンジンを止めて行ってください。

[↑前項に戻る](#)

作業方法

↑前項に戻る

「ストレッチ アームが動きます」の表示とともに、ストレッチアームが回り始めます。

フィルム設定
500mm

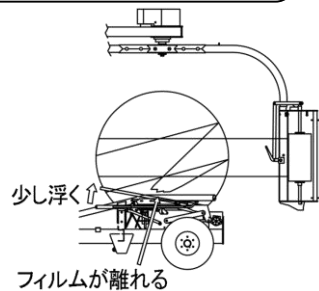
ストレッチ アーム ガ ウゴキマス

※自動作業のみ表示されます。

フィルム設定
750mm

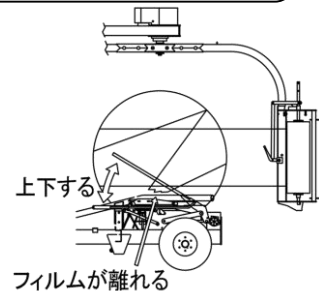
ストレッチアームが1回転後(巻数:1)からグリップカッタが少し浮き、挟んだフィルムを離します。

ストレッチアームが1回転後(巻数:1)からグリップカッタが上下し、挟んだフィルムを離します。



ラッピング チュウ

セッテイ マキシウ :24 カイ
マキ スウ :2 カイ

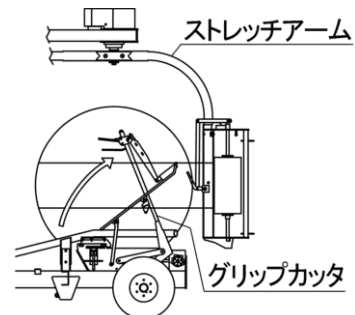


巻数が設定した巻数の1つ前(例:設定値24のときは“23”)になったとき、ストレッチアームが低速回転になります。

ラッピング チュウ

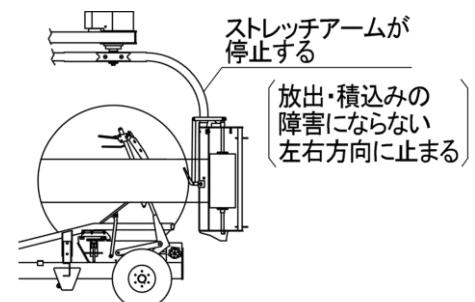
セッテイ マキシウ :24 カイ
マキ スウ :23 カイ

低速回転でストレッチアームが半回転したとき、グリップカッタが上昇します。



低速回転でさらに半回転した後、ストレッチアームが停止します。

(ストレッチアームは後のバール放出、積込みの障害にならない位置に自動停止します。)



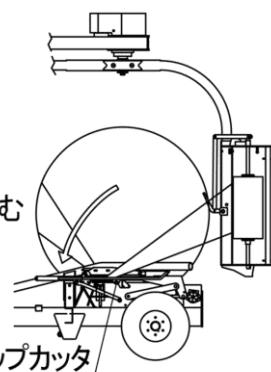
作業方法

↑前項に戻る

ストレッチアームの停止と同時にグリップカッターが下降し、フィルムを束ねて挟みつけ、フィルムのベール側をナイフに押さえつけ切断します。

フィルムを挟む

グリップカッター



ラッピング シュウリョウ

自動作業……自動的に放出されます。
もしスイッチが手動放出になっていたら自動放出に切替えれば放出されます。
半自動作業……リフトアームスイッチにて放出します。

“自動作業で手動放出状態のみの表示”

ベール ホウシュツマチ

放出は自動放出、手動放出の2種類から選べます。



ベール ヲ ホウシュツシマス

手動放出にあればラップ作業後放出待ちの状態でピッピッと音が鳴ります。

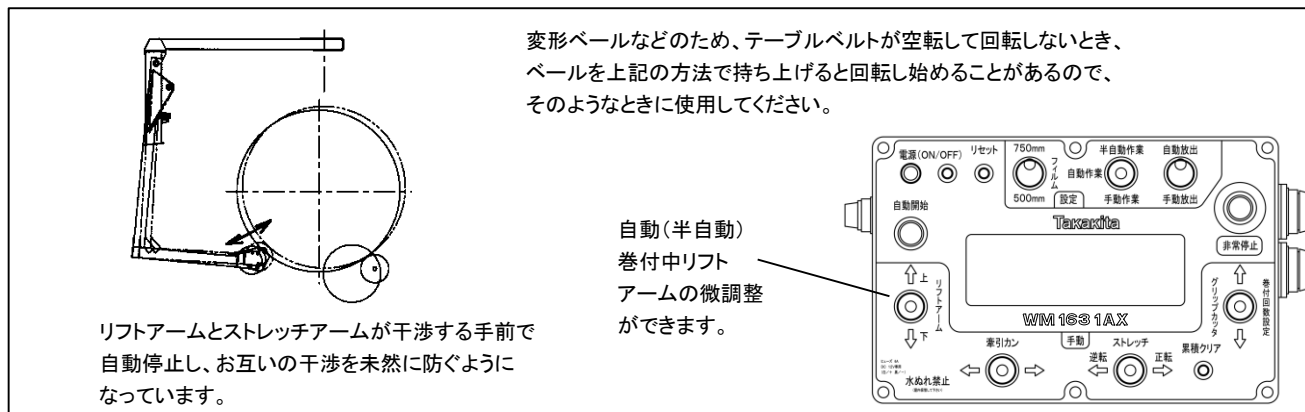
⚠ 注意

ベールを放出するときは、後方に人がいないことや、障害物のないこと確認してください。
また、転動しない場所で放出してください。

作業方法

①自動（半自動）巻付け中におけるリフトアームの微調整

自動（半自動）巻付け中にリフトアーム上下のスイッチを押すとリフトアーム停止位置の微調整ができます。



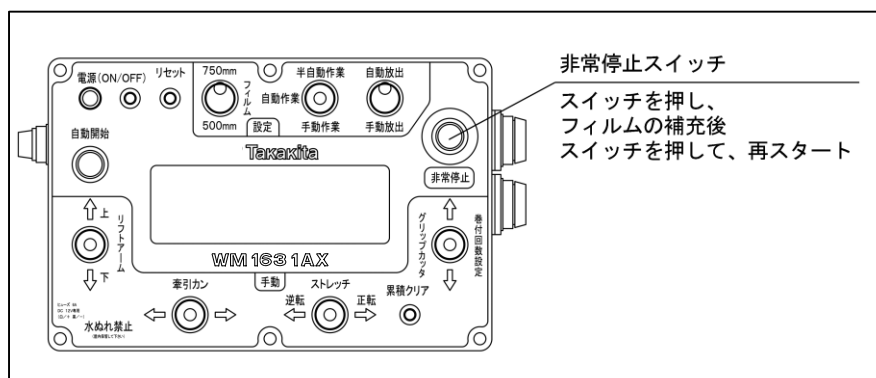
②巻付け中にフィルムがなくなったり、切れたりした場合

すぐに非常停止スイッチを押し、回転を止めてください。

フィルムの補充を行った後、再度非常停止ボタンを押して再スタートしてください。

（停止中は音が鳴り続けています。）

非常停止ボタンを押して再スタートすると、残りを通常通り自動巻付けします。



注意

- 正確な巻付けにするため、できるだけ早く非常停止スイッチを押してください。

③自動巻付累積表示

自動（半自動）作業にて作業を行った数量のみ表示します。

自動開始待ちの状態にすると累積数が表示されます。（自動作業中はリセットボタンを押してください。）

（表示例）

カイシマチ
マクスウ セッテイ カノウ
グリップ ウエ シタ デ セット
セッテイ:24 ルイセキ:3

注意

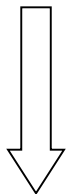
- 手動巻付けした場合は、数に加わりません。

巻付け途中で非常停止した後、再度スタートした場合はカウントされます。

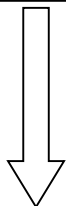
作業方法

6. 手動作業

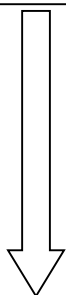
手動作業位置にする。



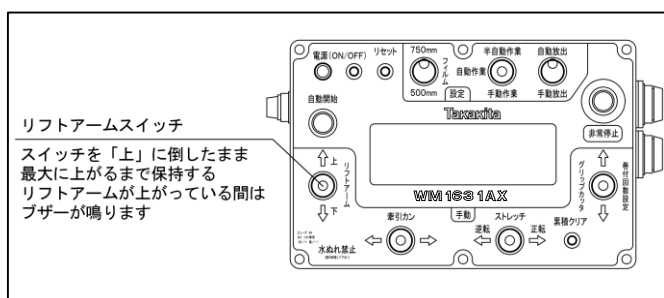
1回目のみ
ストレッチアームを手動操作
で左右にする



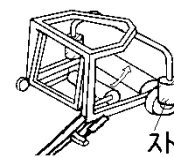
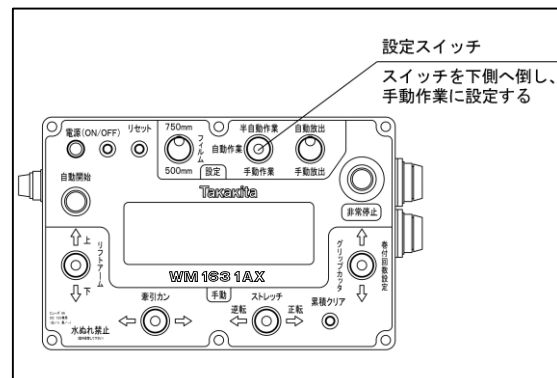
ベールに向かって前進する



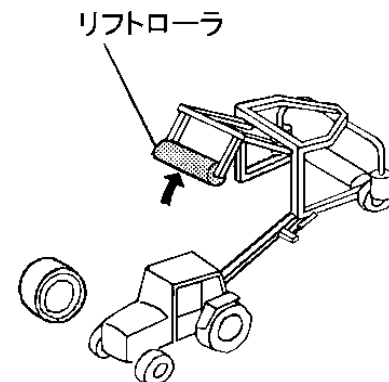
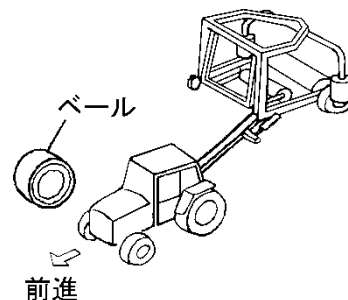
ベールの手前でリフトローラ
を上げる



ストレッチアームが左右に
あること (確認・修正)



ストレッチブラケットは
左右に持ってくる



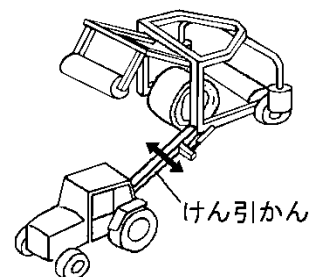
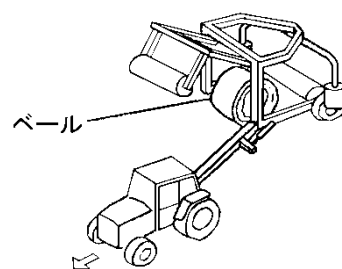
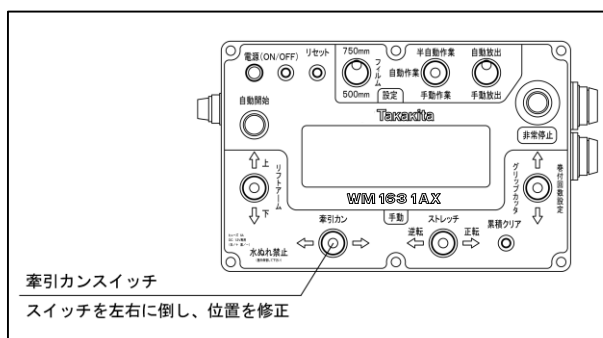
次ページ

作業方法

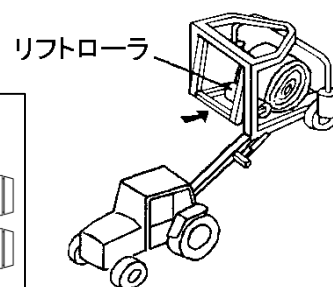
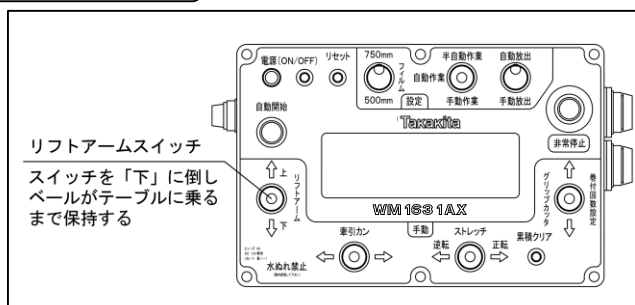
↑ 前項に戻る

前進してベールを入れる

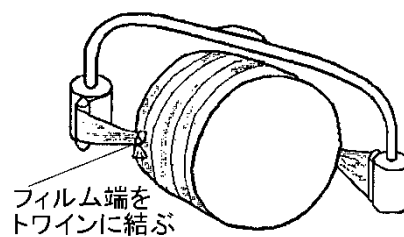
ずれたときは「牽引カンスイッチ」を倒して修正する



リフトローラで積込みする



1個目のみ
ベールのトワインにフィルムを
結ぶ



警告

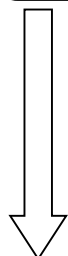
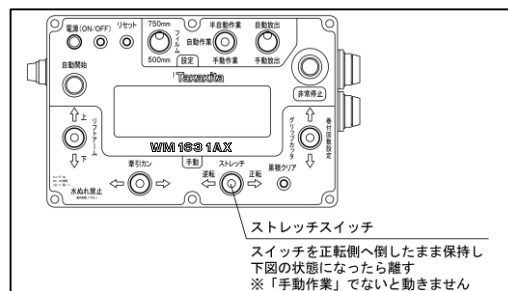
取扱いは、トラクタのエンジンを止めて
行ってください。

次ページ

作業方法

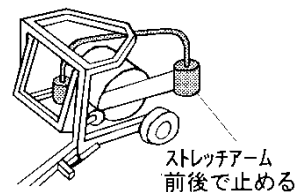


ストレッチスイッチを正転側に倒し、巻数が3～4になるまでストレッチアームを回転させ、ストレッチアームがほぼ前後の位置で止めてください

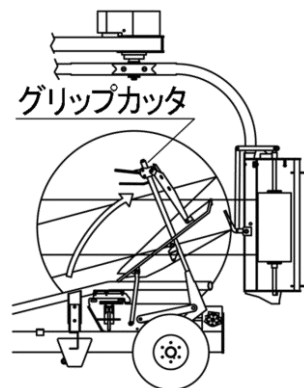
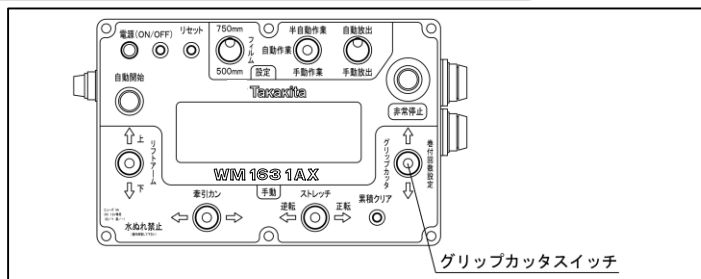


注意

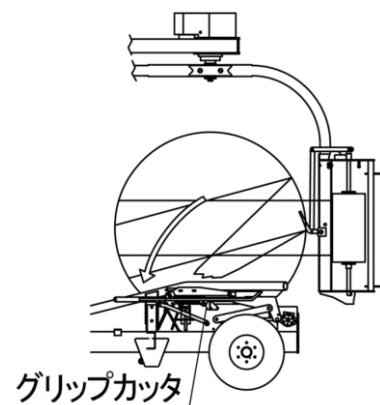
手動作業のときはリフトローラが
どこの位置にあってもストレッチ
が回転しますのでアームと接触
しないようにしてください。



グリップカッタスイッチを「上」に倒し、グリップ
カッタを最上げにして、つかんでいるフィルムを
離してください



グリップカッタスイッチを「下」に倒し、グリップ
カッタを最下げにします。

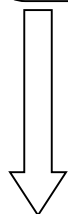
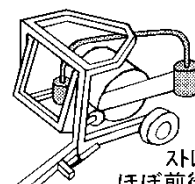
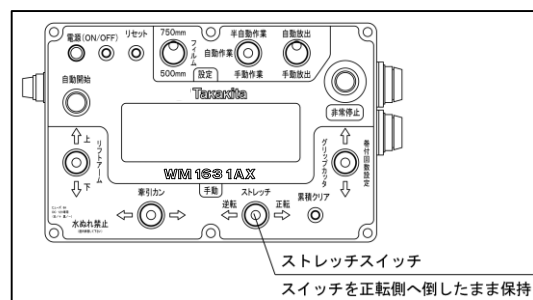


次ページ

作業方法



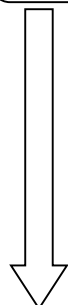
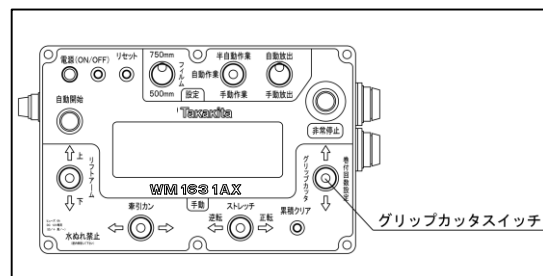
ストレッチスイッチを「正転」に倒して保持し、ストレッチアームを設定巻数の1回転前まで回転させ、ストレッチアームがほぼ前後の位置で止めてください



シュドウ モード

セッテイ マクスウ:24 カイ
マクスウ :23 カイ

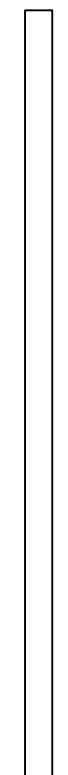
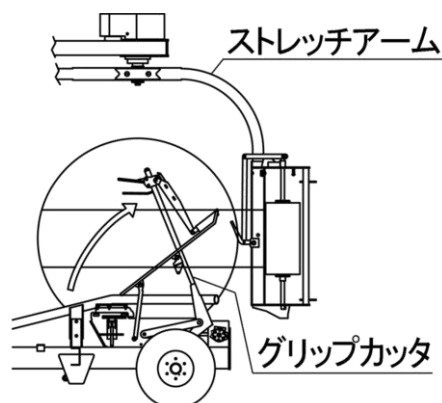
グリップカッタスイッチを「上」に倒し、グリップカッタを最上げにしてください



シュドウ モード

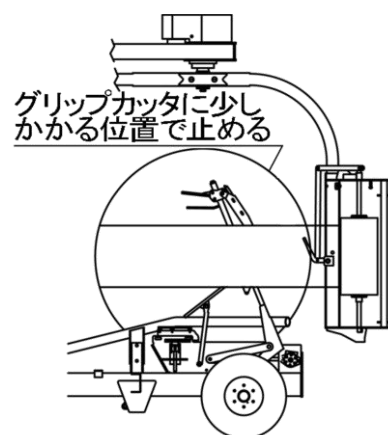
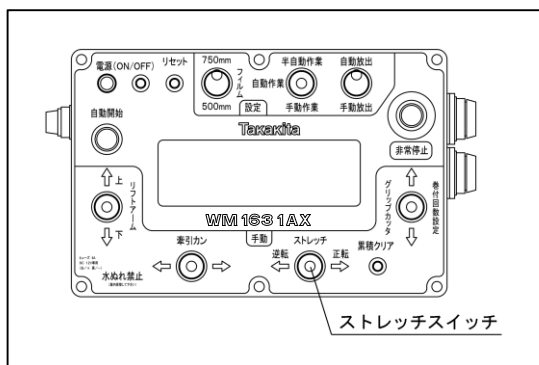
セッテイ マクスウ:24 カイ
マクスウ :23 カイ

ストレッチスイッチを「正転」に倒して、フィルムがグリップカッタにかかるまでストレッチアームを回転させてください



シュドウ モード

セッテイ マクスウ:24 カイ
マクスウ :24 カイ



作業方法



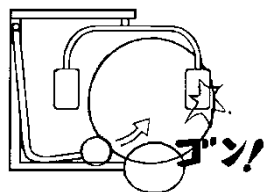
グリップカッタスイッチを「下」に倒し、グリップカッタを最下げにしてください

シュドウ モード

セッテイ マクスウ:24 カイ
マクスウ :24 カイ



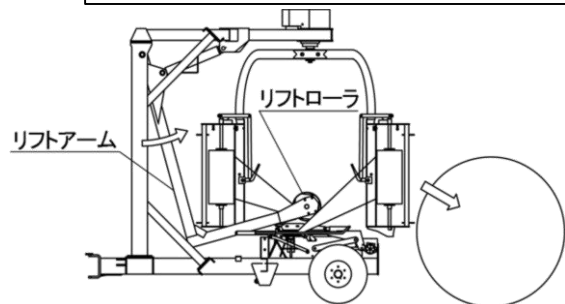
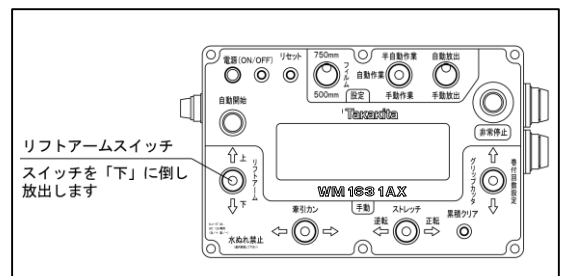
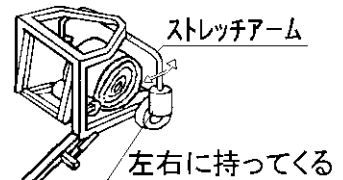
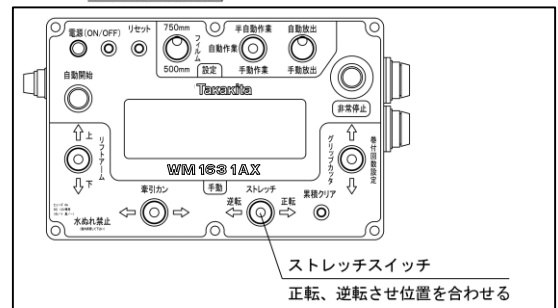
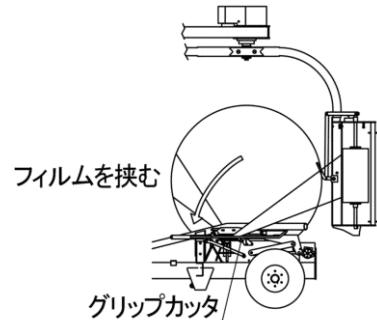
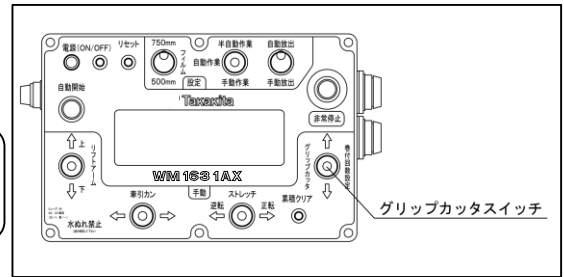
「放出」「積込み」の障害にならない位置にストレッチアームがあることを確認してください
もし障害になる場合は、ストレッチアームスイッチを正逆させ、位置修正をしてください



この場合は、「ストレッチアーム」レバー正逆で位置合わせをしてください。

放 出

※ボール放出後は一度 自動、半自動作業にスイッチを倒して表示をクリアしてください。
(手動作業では放出を認識できません。)



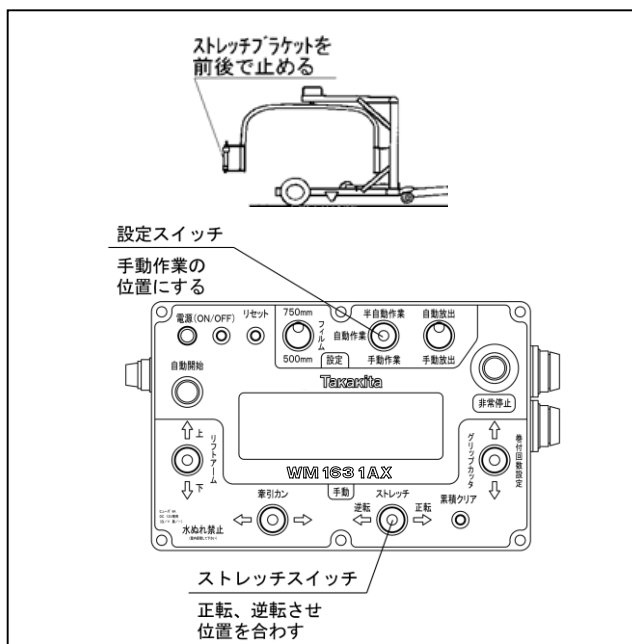
⚠ 注意

ボールを放出するときは、後方に人がいないことや、障害物のないことを確認してください。
また、転動しない場所で放出してください。

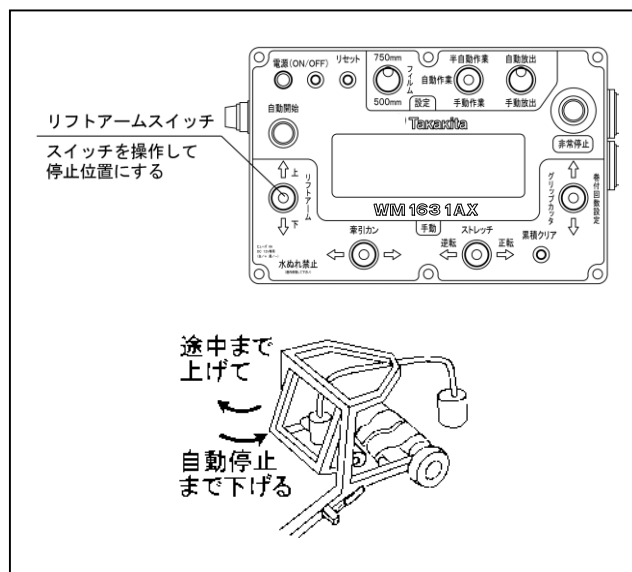
作業方法

7. 作業から移動への切替え

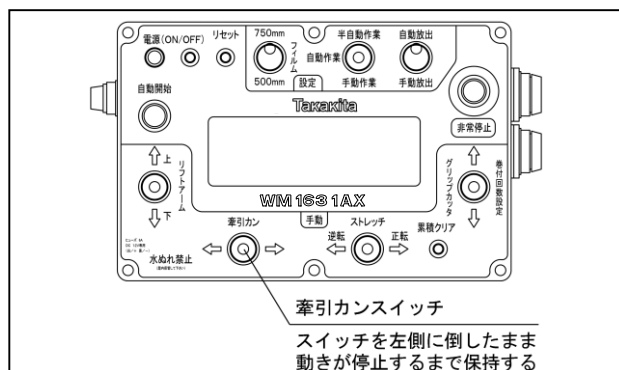
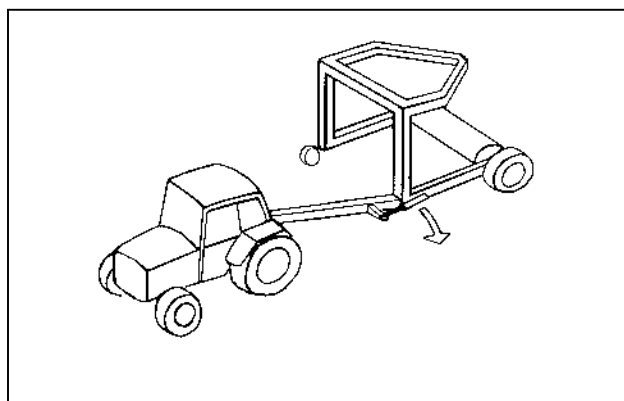
- ①ストレッチブラケットをほぼ前後の位置にしてください。



- ②リフトアームを停止位置にする。

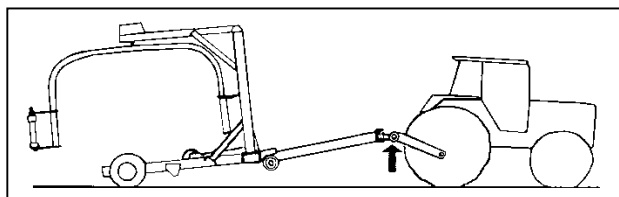


- ③本機を左側に移動させ、トラクタの真後ろにします。



- ④ガードをたたむ。(32 頁参照)

- ⑤ロワーリンクを最大まで上げる。



注意

ロワーリンクを上げるためには、トラクタの外部油圧取出し状態を解除する必要があります。

8. フィルムの取外し

フィルムの取外しは、『フィルムをセットする』(32～33 頁)の項を参照して、その逆手順で行ってください。

注意

- 作業終了後は必ずフィルムを取外し、段ボール箱などに入れ、中で動かないような処置をしてください。
 - 本機けん引かん上部の収納ボックスに、8 箱のフィルムを収納することができます。
- ※フィルムは必ず箱に入れ、収納ボックスに収納してください。

警告

- ①本機を装着しての運転は、道路及び周辺の条件に適した速度で行ってください。
- ②カーブを曲がる時は、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときは油圧を切り、必ずエンジンを停止させ、回転部が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照 ページ	チェック
1	コントロールボックスの電源	電源ランプ確認	26	
2	テーブルローラ関係への草の巻付き	巻付いた草を除去する		
3	ローラベルトに傷はないか	傷があれば新品と交換		
4	フィルム切断ナイフ	破損しているときは新品と交換	32	
5	タイヤの空気圧	不足のときは空気補充	53	
6	予備シェアボルト	不足のときは補充	52	
7	ゴムロールへのゴミ・ノリの付着	灯油で取り除く		
8	各部のボルト・ナット	ゆるみ、がたつきがあれば増締めする		
9	その他各部の注油・グリス	「各部への注油・グリスアップ」参照	54	

以上について異常が認められない場合は、エンジン回転速度を低速にし、負荷をかけず、3～5分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

警告

- ①各部の調整をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は、必ず取付けしてください。

1. シェアボルトの交換

◆シェアボルト式安全装置を装備

ベルトローラ（後）、駆動ギヤに過負荷がかかったときボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

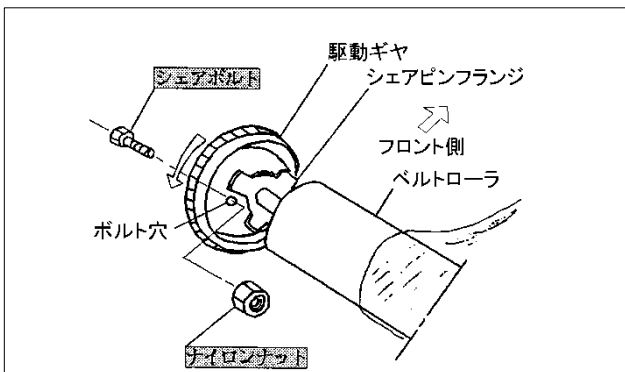
◆シェアボルトのサイズ

ボルト M8×35 (8T) 半ネジ
ナイロンナット M8

(カバーの中に予備が4セット入っています)

◆シェアボルトの交換

- ①カバーを外す
- ②せん断させたボルトを除去する
- ③コントロールバルブレバーでストレッチアームを回すことで、駆動ギヤを回し、ボルト穴が通る位置にしてください。
- ④外側からボルトを入れ、ナイロンナットで締付けしてください。
- ⑤カバーを取付けてください。



注意

シェアボルトは、上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

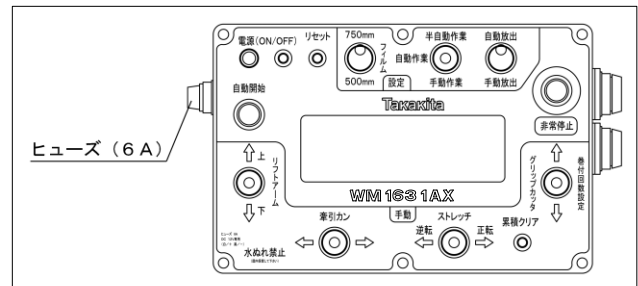
2. ヒューズの交換

電源が入らない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。点検し、切れていれば交換してください。

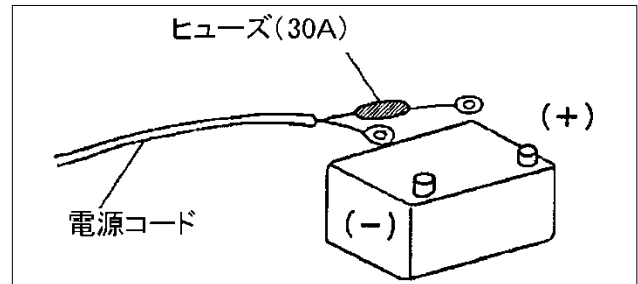
〔 予備ヒューズ各 1 ケが付属品箱に入っています。 〕

アンペアを確認し使用してください。

●コントロールボックスのヒューズ

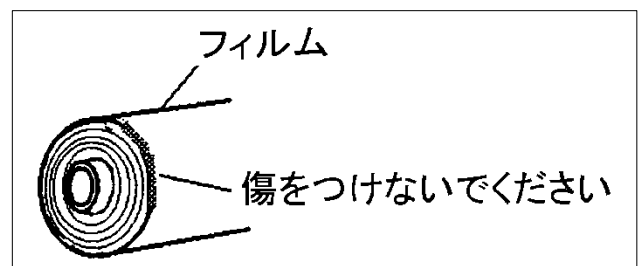


●電源コードのヒューズ



3. フィルムの取扱いについて

- フィルムの表面に傷をつけないようにしてください。特に端面は傷がつきやすく、傷がつくとラッピング中に切れてしまいますので、注意して取扱いしてください。
- 使用後は必ず取外し、乾燥した屋内で保管してください。



注意

フィルムは雨にぬらさないでください。
雨にぬれると紙筒が変形し、抜き取れなくな
ります。

簡単な手入れと処置

4. タイヤの点検・修理

◆装着のタイヤと空気圧

●タイヤサイズ

22×10.00-10 12プライ

●定期的に空気圧を点検してください。

常圧タイヤ内圧 575 KPa

(5.75 kgf/cm²) 以下

! 警告

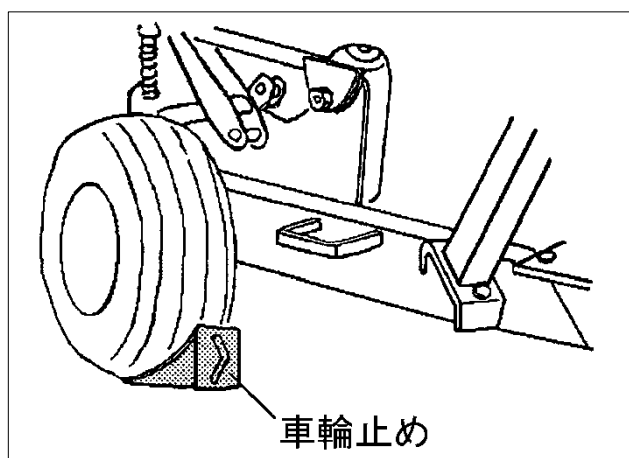
- タイヤに関係する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車輪止めをしてから行ってください。
- タイヤ及びホイールに関する修理は、十分な設備をもったタイヤショップなどの専門の店舗に依頼してください。

5. 車輪止め

駐車時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをしてください。また、使用後はフレーム部へ格納してください。

! 警告

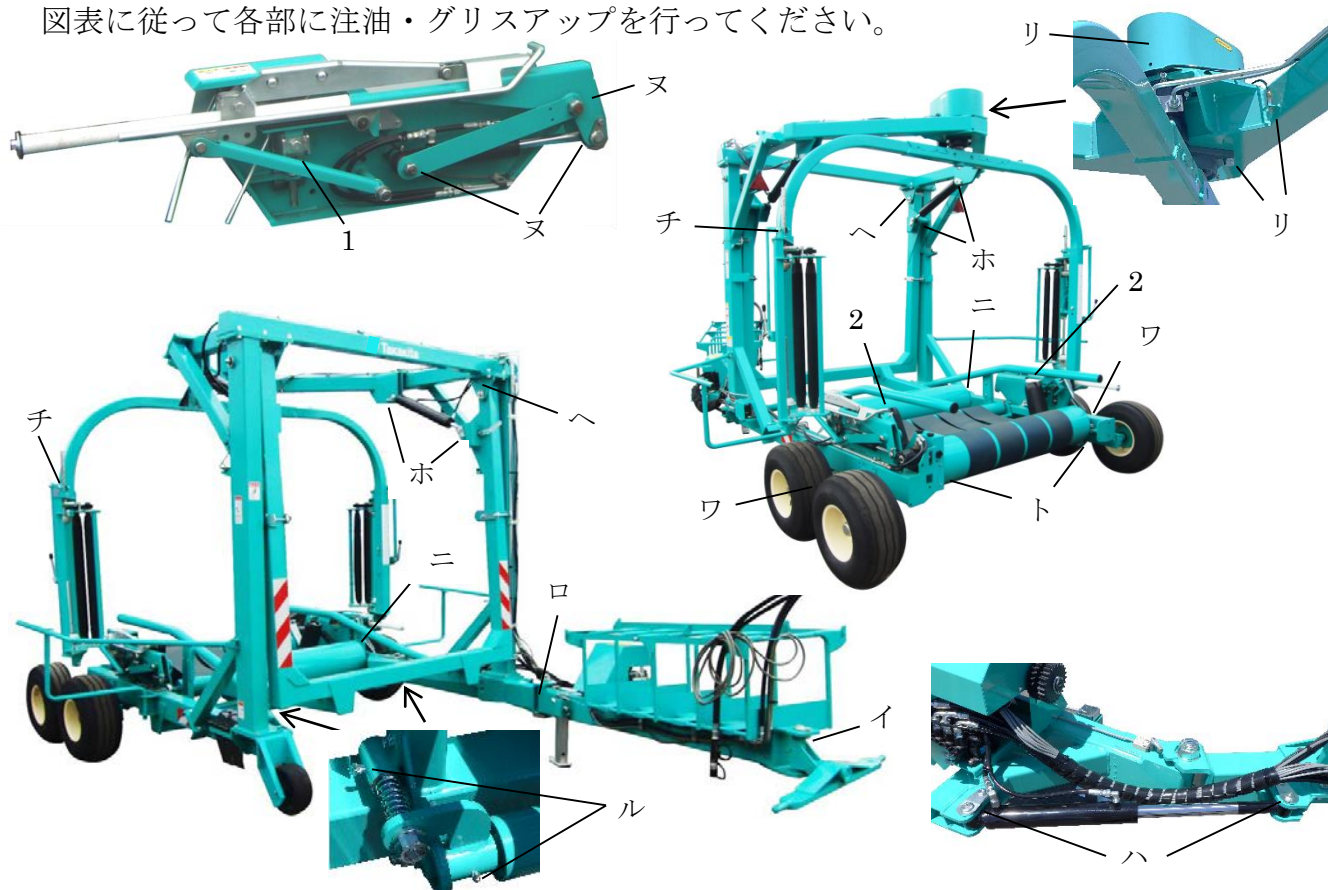
本機をトラクタから切り離したときも、必ず車輪止めで歯止めをしてください。本機が動き、思わぬ事故の原因になります。



簡単な手入れと処置

6. 各部への注油・グリスアップ

図表に従って各部に注油・グリスアップを行ってください。



番号	場 所	注油時間	番号	場所	グリスアップ時間
1	グリップカッタ摺動部 (2ヶ所)	作業前	ト	ローラ駆動ギヤ部 (カバー内)	20時間毎
2	サイドローラ上部 (2ヶ所)	作業前		ローラ部ベアリング (2ヶ所)	20時間毎
			チ	フィルム上軸ガイド (2ヶ所)	20時間毎
			リ	ストレッチアーム駆動ギヤ部 (カバー内)	20時間毎
				ストレッチアームベアリング (2ヶ所)	20時間毎
番号	場 所	グリスアップ時間	ヌ	グリップカッタシリンダ支点 (4ヶ所)	20時間毎
イ	ヒッチ支点 (2ヶ所)	作業前		グリップカッタアーム支点 (2ヶ所)	20時間毎
ロ	けん引かん支点	作業前	ル	スベリコミローラブラケット (2ヶ所)	20時間毎
ハ	けん引かんシリンダ支点 (2ヶ所)	作業前	ワ	タンデム (2ヶ所) ※WM1631AXW(T)のみ	20時間毎
ニ	リフトローラベアリング (2ヶ所)	作業前			
ホ	リフトアームシリンダ支点 (4ヶ所)	20時間毎			
ヘ	リフトアーム支点 (2ヶ所)	20時間毎			

※本機にも「注油・グリスアップ」箇所のステッカーが貼付されていますのでご活用ください。
(バルブ操作レバーのカバー背面)

簡単な手入れと処置

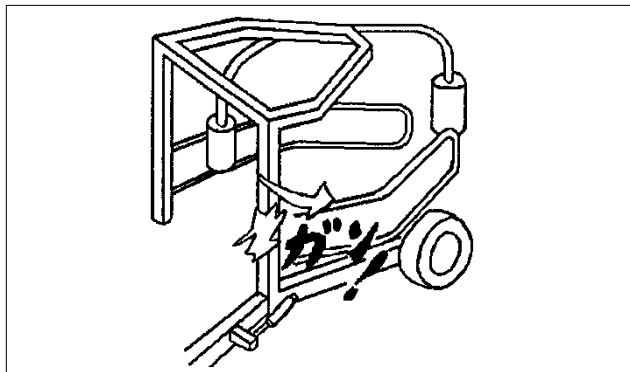
7. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した泥やほこりなどを落とし、巻付いた草などを取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部やチェーン類には十分注意し、錆びないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、塗料を塗って錆びがないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納するときは、雨やほこりのかからない屋内の平坦な場所で保管してください。

使用上のご注意

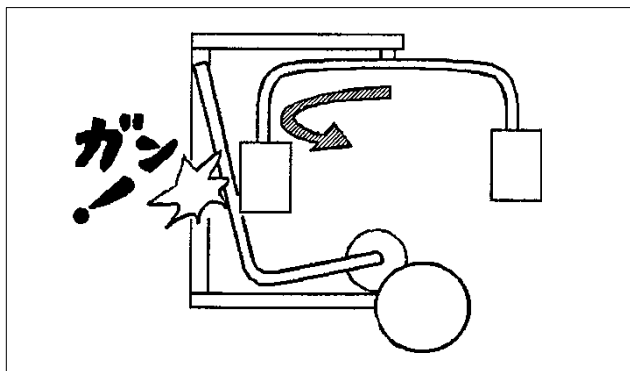
つぎの事柄は機械の破損につながりますので、行わないようお願いいたします。
万一、次の事柄を守れずに本機を使用し、破損が生じた場合は、保証の対象となりません。

- ガードをたたんだ状態で、ストレッチアームを回さないでください。



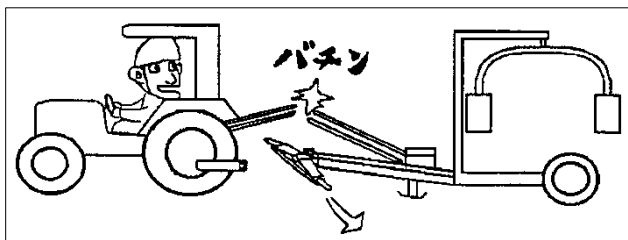
- ・ガードが破損します。

- リフトアームが適正作業位置（自動停止した位置）より後方にあるときは、ストレッチアームを回さないでください。



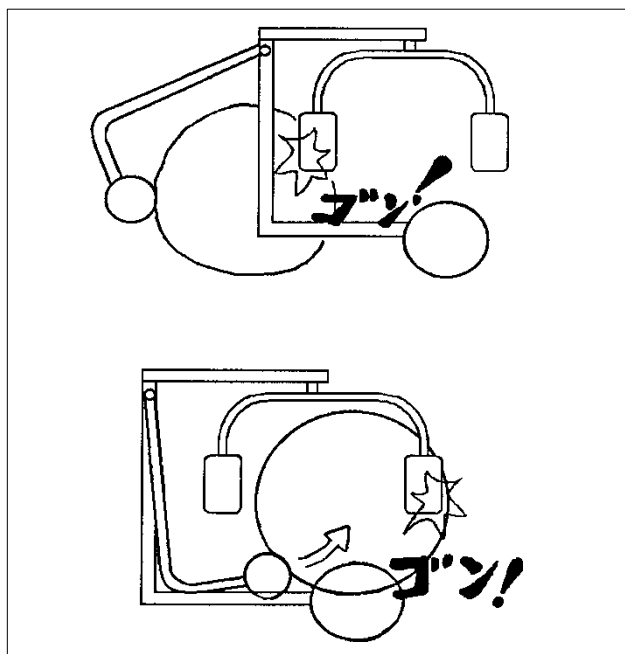
- ・ストレッチブラケットが破損します。
※コントロールボックスで自動および半自動作業しているときは安全装置が働き、ストレッチアームは回りません。

- トラクタに装着しないで、けん引かんを動かさないでください。



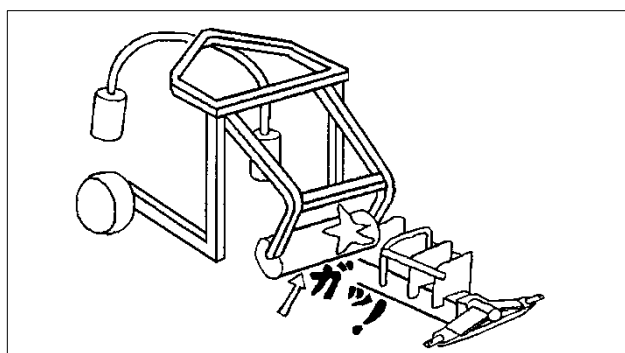
- ・油圧ホースが破損します。

- ストレッチブラケットが前後にあるときは、積込み・放出をしないでください。



- ・ストレッチブラケットが破損します。
※自動で作業しているときは、ストレッチブラケットが適正位置に自動停止します。

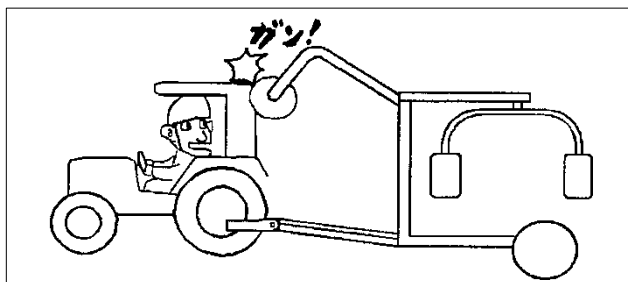
- けん引かんが移動状態にあるときは、リフトローラを上げないでください。



- ・けん引かん及び、その上部の部品が破損します。

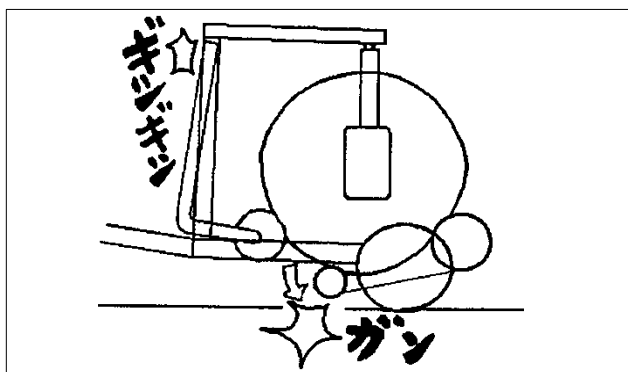
使用上のご注意

- リフトローラを上げた状態で、急旋回しないでください。



- ・リフトローラがトラクタにぶつかることがあります。

- ボールを積んだまま、長距離の移動をしないでください。

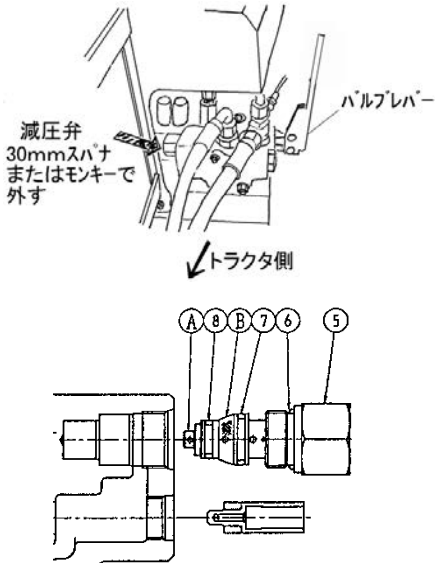


- ・テーブルベルト破損ならびに、各部に無理な力がかかります。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断		処 置	参 照 ペ ー ジ
●リフトアーム・けん引かん・グリップカッタ・ストレッチアームが ・動かない ・ゆっくりしか動かない	油	バルブレバーを操作しても動かない ●カプラのトラクタへの接続が逆である ●カプラが確実に接続されていない ●カプラのメス・オスが異なっている ●トラクタが外部油圧取出しになっていない ●トラクタの外部油圧取出しレバーが完全に引かれていない 戻っている ●トラクタの外部油圧オイルが不足している	●OUT、INを入れかえる ●確実に接続する ●合ったものに交換する ●外部油圧に切替える ●レバーを完全に引いて固定する ●規定量まで補充する	— 25 — — — —
	電気関係	コントロールボックスで動かない ●電源が入っていない（電源ランプが点灯していない） ●電源コード及びコントロールボックスコードの接続が外れている ●電源コードの＋が逆である ●ヒューズが切れている（電源ランプが点灯しない）	●電源を入れる ●コネクタを接続する ●＋は白、－は黒正しく接続する ●電源コード部(30A) 交換 コントロールボックス部(6A) 交換	26 26 26 52
●コントロールボックスの自動がきかない コントロールボックスの手動でストレッチアームは回る	●自動作業・手動作業の切替えが手動作業になっている		●自動作業側に切替える 自動／手動切替レバーを倒して、自動作業側にする	39
●コントロールボックスの手動でストレッチアーム及びグリップカッタが動かない	●自動作業・手動作業の切替えが自動作業または半自動作業になっている		●手動作業側に切替える 自動／手動切替レバーを倒して、手動作業側にする	45
●コントロールボックスの巻数設定ができない (数字がアップ、ダウンしない)	●自動作業・手動作業の切替えが手動作業または半自動作業になっている		●自動作業側に切替える 注 意 巻付回数設定を設定することで記憶されます	36
●コントロールボックスの累積ベール 「0」クリアができない	●自動作業・手動作業の切替えが手動作業または半自動作業になっている		●自動作業側に切替える	38
●コントロールボックスの操作が効かない	●コントロールバルブの電気カプラ部での接触不良		●コントロールバルブ上のカバーを外して、コントロールバルブから出ている電気カプラ(四角の17P)を2～3回抜き差しし、再度きっちり差ししてください。	—
●リフトアームが動かない	●けん引かんが作業位置にありません		●コントロールボックスの「牽引カン」レバーを操作してけん引かんを広げてください	—

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●バルブレバーに圧がかかって中立に戻らない	●コントロールバルブ内に異物(ゴミ)がかみ込んでいる	(1)コントロールバルブの減圧弁を外す  減圧弁 30mmスパナ またはモンキーで 外す バルブレバー トラクタ側 減圧弁⑤をゆるめ、取外します。 このとき、減圧弁スプール①を 落とさないよう、またフィルタ②を 変形させないよう、また汚さないよう 注意してください (2)バルブレバーを手で押し引きして 油を抜いて圧を取る (3)減圧弁⑤を元の通り、締付けて ください。このときも減圧弁スプール ①を落とさないよう、またフィルタ ②を変形させないよう注意して ください 以上の処置をしても再度同じ不調が 起こる場合は、トラクタの外部油圧 オイルが汚れています。 全量を交換してください。	—
●フィルムが伸びない または、伸びが一定しない	●フィルムのセットする方向が逆である ●フィルムがゴムローラを通過していない	●正しい向きに入換える ●ゴムローラを通し、正しくセットする	32 33
●ラッピング中にフィルムが切れる ●テーブルローラが回転しない	●フィルムに傷がついている ●シェアボルトが切れている	●傷の部分を取り除く ●シェアボルトを交換する (M8×35 8T 半ネジ)	33 52

この項にしたがって、再度点検されても直らないときには販売店にお問い合わせください。

自動運転時のエラーチェック

WM1631AX センサー位置

①グリップカッタ右

リフトアーム右
57107-2380-000

②上死点センサ

③定点センサ
76112-2370-002

④フィルム離しセンサ

⑤回転前センサ

⑥回転後センサ

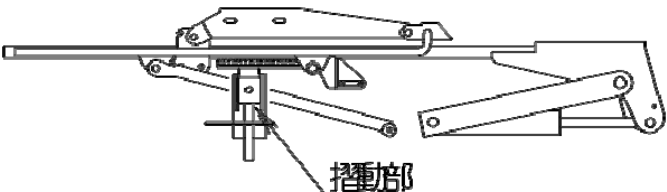
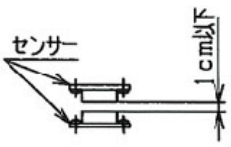
ハール右
57108-4161-000

ケンインカン
76112-2470-001

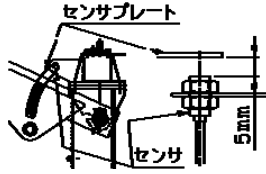
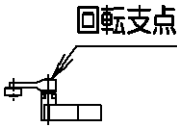
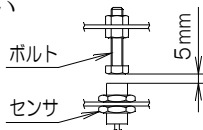
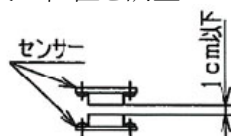
ハール左
57108-4161-000

①グリップカッタ左

エラー表示	エラー内容	センサ番号
グリップセンサイショウ	グリップカッタが検出できない	①
ジョウテンセンサイショウ	上死点センサが検出できない	②
ティテンセンサイショウ	定点センサが検出できない	③
ハナセンサイショウ	フィルム離しセンサが検出できない	④
マエセンサイショウ	回転前センサが検出できない	⑤
ウシロセンサイショウ	回転後センサが検出できない	⑥

エラー表示	診断	処置	参照ページ
「グリップセンサイショウ」 作業開始時または 作業中に上記エラーになる	●グリップカッタセンサが働いて いません (センサ番号①・グリップカッタ左 グリップカッタ右) ①グリップカッタに何かはさまって 下がらないようになっていませ んか？ ②グリップカッタ摺動部が固着し 動きが固くなっていませんか？  ③グリップカッタセンサのすきまが 広がっていませんか？ 位置がずれていませんか？	●はさまっている物を取り除いてく ださい ●摺動部に注油しグリップカッタの 動きを確認してください ●すきま及び位置を下図のように 調整してください 	— — —

自動運転時のエラーチェック

エラー表示	診断	処置	参照ページ
「ジョウシテンセンサイジョウ」 全自動作業時に リフトアームが上がった後、 またはロールを放出した後に 上記エラーになる	●リフトアームのジョウシテンセンサが働いていません (センサ番号②・上死点センサ) ①センサプレートがジョウシテンセンサの反応する位置に調整されていますか？ ②キケンセンサのアームの回転支点が固着して動きが固くなっていますか？ ③キケンセンサが反応する位置に調整されていますか？	●センサプレートとジョウシテンセンサの位置を下図のように調整してください  ●回転支点を潤滑しアームの動きを確認してください  ●キケンセンサの位置を調整してください	-
「テイテンセンサイジョウ」 ・全自動作業にてロール積み時にリフトアームが作業位置で停止せずエラーとなる ・半自動作業にてロール積み時にリフトアームを作業位置にセットしても巻付開始できない	●リフトアームのテイテンセンサが働いていません (センサ番号③・定点センサ) ①テイテンセンサとボルトのすきまが離れていませんか？	●ボルトの高さを下図のように調整してください 	30
「マエセンサイジョウ」 「ウシロセンサイジョウ」 「ハナシセンサイジョウ」 ラップ作業中にストレッチアームが停止しエラーとなる	●ストレッチアーム支点部のマエセンサ・ウシロセンサ・ハナシセンサが働いていません (センサ番号④～⑥・フィルム離しセンサ 回転前センサ 回転後センサ) ①センサのすきまが広がっていませんか？	●すきま及び位置を調整してください 	-
「ケンインカンイチシュウセイ」 全自動作業にてリフトアームが自動で降りない	●リフトローラーに当たる位置にケンインカンがあります ●ケンインカンセンサのアームの回転支点が固着して動きが固くなっていますか？	●干渉しない位置までケンインカン動かしてください ●回転支点を潤滑しアームの動きを確認してください 	-
上記対応を行ってもエラーが解除されない	●センサの破損及びコードの断線はありませんか？	●修理してください	-

この項にしたがって、再度点検されても直らないときには販売店にお問い合わせください。

付 表

1. 主要諸元

型 式	WM1 6 3 1 A X (T)	WM1 6 3 1 A X W (T)
名 称	フルオートラップマシーン	
装 着 方 法	2 P リンケージ けん引式 カテゴリ II	
駆 動 方 法	トラクタ油圧 (複動1系統)	
適 応 ト ラ ク タ	2 9 . 4 ~ 8 8 . 3 k W (4 0 ~ 1 2 0 P S)	
機 体 寸 法	全 長	5 , 4 0 0 mm (最小時)
	全 幅	2 , 5 1 0 mm (移動時) 4 , 4 5 0 mm (作業時)
	全 高	2 , 7 5 0 mm
質 量	1 , 4 6 0 kg	1 , 5 4 0 kg
タ イ ヤ サ イ ズ	2 2 × 1 0 . 0 0 - 1 0 1 2 P R	
適用バールサイズ	巾 1 2 3 cm × 径 φ 1 2 0 cm ~ φ 1 6 0 cm	
使用可能フィルム	巾 5 0 cm × 長さ 1 , 8 0 0 m、巾 7 5 cm × 長さ 1 , 5 0 0 m	
フィルム重ね率	2 重または、その倍数 (4 重・6 重)	
作 業 能 率	バール数 4 0 ~ 5 5 / h	

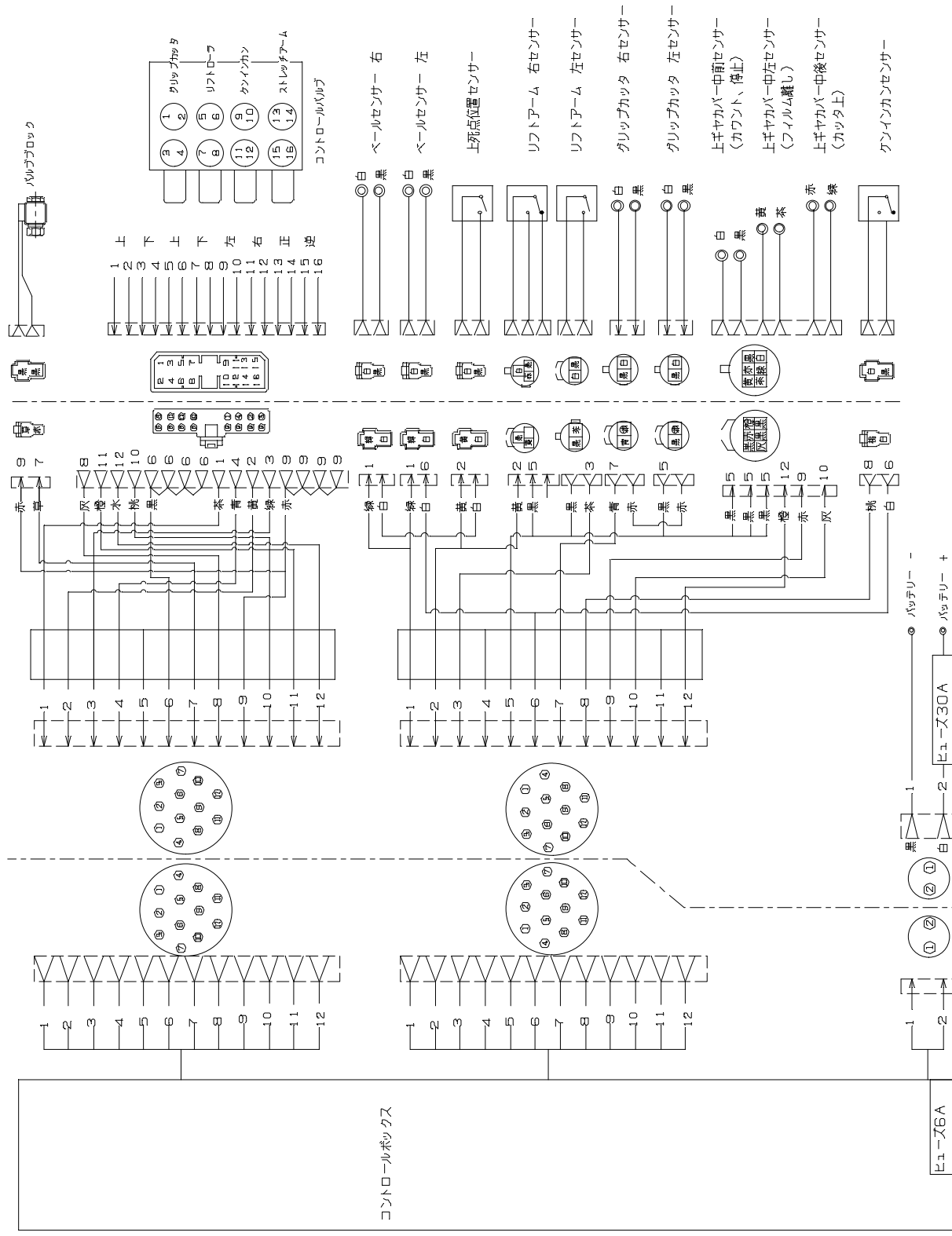
※この主要諸元は、改良などにより予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

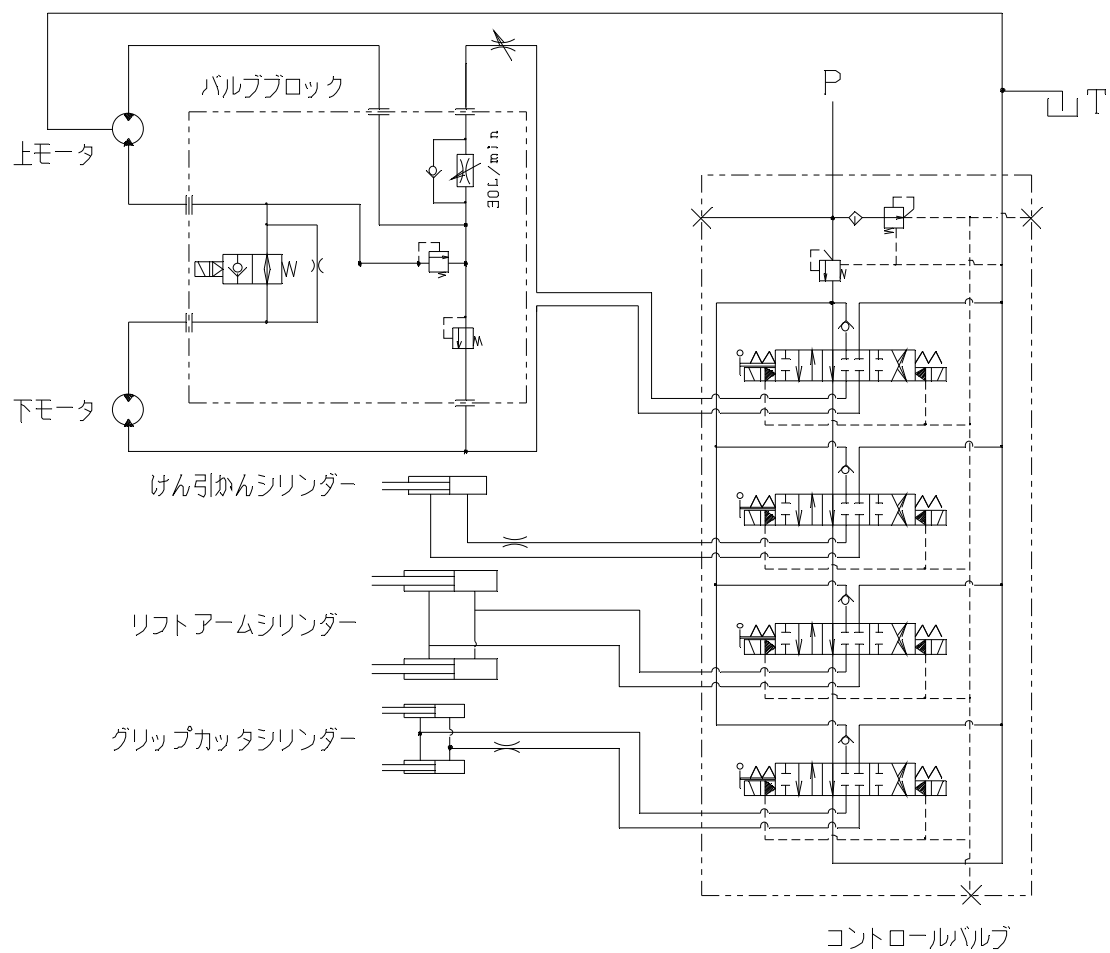
品名	部品コード	備考
シェアボルト	0 1 1 5 8 0 0 8 0 3 5 A	M8 × 3 5 (8 T) 1 0 本セット
ナイフ	5 7 1 0 7 5 5 5 5 0 0 0	
ヒューズ 6 A	0 0 9 0 0 0 1 0 0 0 6 0	コントロールボックス用
ヒューズ 3 0 A	0 0 9 0 0 0 1 0 0 0 3 0 0	電源コード用

付表

3. 配線図



4. 油圧回路図



WM1631AX油圧回路図